

「アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」 結果概要

2012.5.28

株式会社日本総合研究所
総合研究部門 社会・産業デザイン事業部
アジア消費者研究会

目次

調査概要	2
本調査のユニークな特徴	3
調査結果サマリー	4
調査結果	5
1. 世帯の特徴	6
2. 耐久消費財	15
3. 住まい	24
4. インフラ満足度	33
5. 健康	46
6. 医療	54
7. 子ども	61
8. 観光	68
お問い合わせ	74

調査概要

アジア主要都市における「中間層(世帯年間可処分所得5,000~35,000USドル)」以上の消費動向を、わが国(東京)と比較分析するため、約4,000人に対してアンケートを実施。

■調査目的: アジア主要都市ボリュームゾーン消費者の消費動向・消費価値観を、東京と比較分析すること

<主なトピック>

- 世帯の特徴
- 耐久消費財の保有状況・購入意向
- 「健康・医療」・「住まい」・「子ども」・「観光」分野・関連商品における消費状況・消費者ニーズ
- 各種「インフラ」に対する満足度

■調査方法: インターネット調査

■調査時期: 2011年12月

■調査地域: 東京、上海、ムンバイ、シンガポール、クアラルンプール(スランゴール州含む)、バンコク、ジャカルタ、ホーチミンの8都市

■調査対象: 経済産業省「通商白書2009」で定義された分類に倣い、「中間層」(世帯年間可処分所得5,000~35,000USドル)以上の20~40代男女を調査対象に設定。計3,954人*から回答を得た。

なお、調査結果の比較のしやすさを重視して、現地物価水準での調整等を行っていない。

<各都市の回答者数(人)>

	20代	30代	40代	計
男性	83(75)	84(74)	83(81)	250(230)
女性	83(66)	84(79)	83(79)	250(224)
計	166(141)	168(153)	166(160)	500(454)

* 各都市の回答者数は500人。

ただし、クアラルンプールのみ454人。分析時は、性年代別に回答者数の補正処理(ウェイトバック)を行い、500人として集計。

<各都市の回答者数>における()内の数値はクアラルンプール回答者

本調査のユニークな特徴

アジア8ヶ国消費者の行動理由や価値観を、都市単位かつ約4,000サンプルという大サンプルで把握した。得られた結果は、都市間の比較が可能である。

本調査の必要性	都市レベル 定量データ の不足	成長を続けるアジア消費市場への進出を具体的に検討するには、国レベルの定量データでは不十分
	消費価値観 データ の不足	アジアの都市レベル定量データはいくつか存在するが、消費行動や消費価値観まで分析できるものは少ない
本調査の特徴	対象地域・ 対象者	<p>近年注目が高まるアジア8ヶ国の「ボリュームゾーン消費者」がターゲット</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象地域は、東京、上海、ムンバイ、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、ジャカルタ、ホーチミンの8都市 「通商白書」が定義した「中間層(世帯年間可処分所得5,000以上35,000USドル未満)」以上を対象
	データ単位・ サンプル数	<p>消費者実態データを都市単位かつ約4,000サンプルという大サンプルで把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存調査は国単位のデータが多くサンプル数も限られるため、都市単位かつ一定規模以上のサンプル(1都市当たり約500サンプル)のデータは希少
	結果の 比較可能性	<p>都市間の結果比較が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語間の等価性に考慮して調査を実施したため、都市間の結果比較が可能 また、東京でも同じ質問を実施し、アジア消費者の消費実態を直感的に把握可能

調査結果サマリー

アジア7都市の中間層以上消費者は東京に比べ消費意欲が旺盛。

しかも安さだけを求めるのではなく、様々な付加価値の有無が選択基準になっている。

1. 世帯の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 東京・上海・ムンバイの世帯構成はそれぞれ異なる傾向が見られるが、東南アジア5都市は似通っている。 世帯支出の特徴は、各都市の経済成長、社会や文化の影響が色濃くうかがえる。 	5. 健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康取組みの必要性は総じて高いが、実行実態とは乖離がある。 健康取組みの内容別実行率をみると、健康知識の成熟度や文化的・社会的背景によって特徴が見られる。
2. 耐久消費財	<ul style="list-style-type: none"> 自動車：上海・ジャカルタの買い替え・買い増し意向が60%を超え、外車への関心も高い。 家電：上海は薄型TVの所有率が80%を超えている上に、購入意向も8都市中トップ。 	6. 医療	<ul style="list-style-type: none"> 通院時の病院選択時重視項目の上位3位以内に「費用」が入るのはシンガポール・クアラルンプールのみ。 ムンバイ・ホーチミンは他都市に比べ「病院の設備」を重視する傾向が見られる。
3. 住まい	<ul style="list-style-type: none"> すでに70%程度が持ち家を保有。住宅購入意向も旺盛。 資金面では東京ほど潤沢でないものの、購入時最重視項目は「生活環境」など類似点が多く、郊外志向・戸建志向も強い。 	7. 子ども	<ul style="list-style-type: none"> 7都市消費者は東京に比べて、「子ども」に関連する消費に積極的。 習い事は「受験目的の塾」に限らず、上海・ジャカルタ・ホーチミンの中高生で「外国語」60%など、教育に熱心な様子が見られる。
4. インフラ満足度	<ul style="list-style-type: none"> 各種都市インフラに対して「不満」との回答が高いのはジャカルタ・ホーチミン。特に下水道に対する「不満」回答比率は70%以上。 	8. 観光	<ul style="list-style-type: none"> 7都市消費者の25%が日本へ旅行経験あり。 訪日目的1位は「自然景観／田園風景」。 多くの都市で「和」の体験を求めているが、大都市の楽しさを目的に挙げる都市も存在。

調査結果

1. 世帯の特徴

「世帯の特徴」サマリー(1. 世帯構成)

東京・上海・ムンバイにおける中間層以上の世帯構成はそれぞれ異なる傾向が見られるが、東南アジア5都市の世帯人数などは似通っている。

	世帯構成								特徴
	世帯人数				同居世代数			共働き比率	
	1	2	3	4~	1	2	3~		
東京	17	22	27	34	37	56	6	41	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし／核家族が多いと推測される。 共働き比率は8都市で一番低い。
上海	3	8	53	36	11	61	29	85	<ul style="list-style-type: none"> 一人っ子政策で3人世帯が多い。 共働き比率が最も高い。
ムンバイ	1	5	13	82	6	46	47	57	<ul style="list-style-type: none"> 大家族が多い。 共働き比率は東京に次いで低い。
シンガポール	2	10	18	70	13	69	18	75	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア各都市も4人以上世帯が約70%。 シンガポール、クアラルンプールは3世代以上同居の比率が20%を切る。 ホーチミンは特に共働き比率が高い。
クアラルンプール	3	9	16	73	15	68	18	72	
バンコク	5	12	18	65	17	54	28	67	
ジャカルタ	4	12	14	70	18	59	24	60	
ホーチミン	1	8	17	74	10	59	30	82	

凡例:

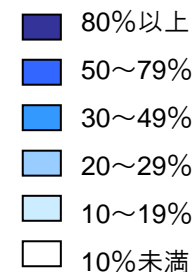
- 80%以上
- 50~79%
- 30~49%
- 20~29%
- 10~19%
- 10%未満

「世帯の特徴」サマリー(2. 世帯収入・支出)

世帯支出の特徴は、各都市の経済成長、社会や文化の影響が色濃くうかがえる。

	世帯年間可処分所得		世帯支出(2011年11月)	
	ボリュームゾーン (USDドル)	副収入が ある比率	衣食住支出の特徴	その他支出の特徴
東京	35,000以上	28%	• 住居・インフラ比率が高い	• 投資の比率が低い
上海	15,000~35,000	66%	• 衣料品比率が高い	• 預貯金・投資比率が突出して高い
ムンバイ	5,000~15,000	67%	• 食品が約50%、衣料品が10~20%、住居・インフラが30~40% (バンコク、クアラルンプールは住居・インフラ比率が高い傾向)	• 家政婦等への支払比率が高い
シンガポール	35,000以上	41%		• 特徴のある支出項目はない
クアラルンプール	15,000~35,000	43%		• 通信比率が最も高い
バンコク	15,000~35,000	59%		• 家政婦等への支払比率が高い
ジャカルタ	5,000~15,000	60%	• 食品比率が高い	• 教育支出比率が高い
ホーチミン	5,000~15,000	70%		

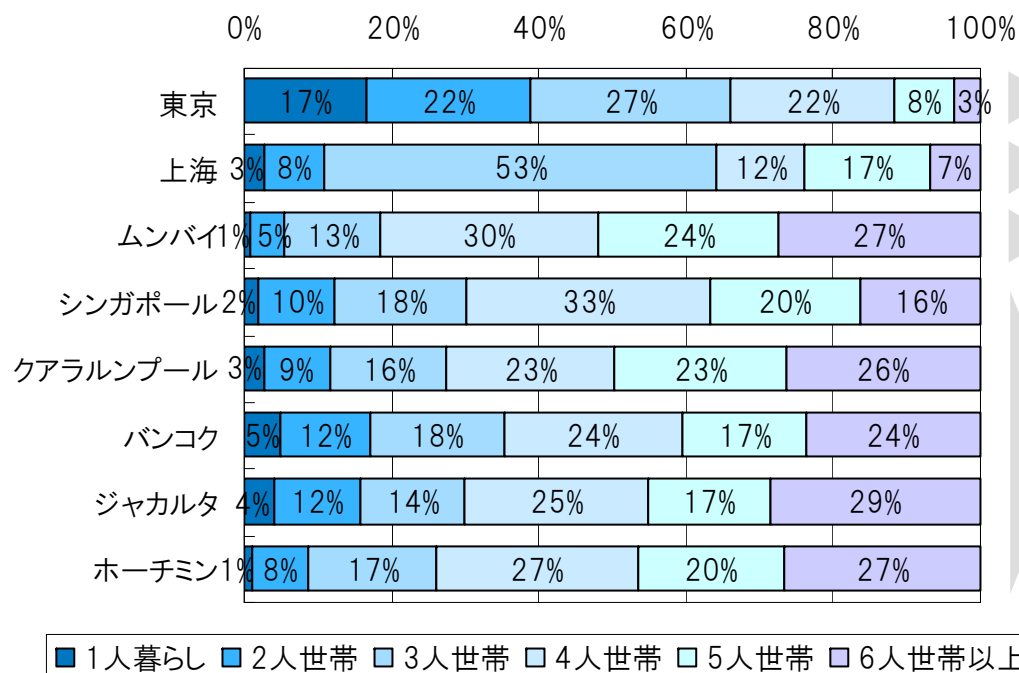
凡例:



1-1. 世帯人数(Q9)

東京・上海に比べて、ムンバイや東南アジア各都市は4人以上の世帯比率が高い。

Q.あなたは、どなたと一緒に住んでいますか。(関係性別に)一緒にお住まいの人数をお答えください。



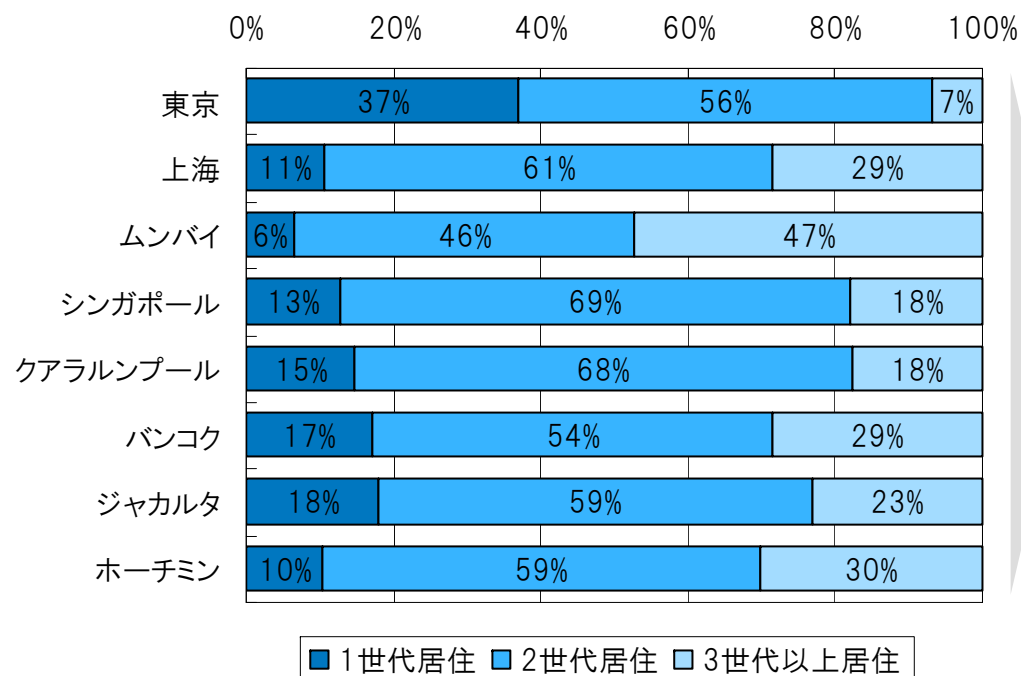
- 東京は一人暮らしが約20%と突出。また、一人暮らし、2人世帯、3人世帯、4人世帯が20~30%とほぼ同じ。
- 上海は3人世帯が50%と突出。一人っ子政策の影響がうかがえる。
- ムンバイは5人以上が約50%と家族人数が多い傾向。
- 東南アジア5都市は都市の発展段階に関わらず、4人以上世帯が70%前後を占める。ただし、シンガポールでは6人以上世帯はさほど多くない。

N=4,000

1-2. 同居世代(Q9)

東京以外は1世代居住が20%以下で、2世代居住以上の比率が高い。

Q.あなたは、どなたと一緒に住んでいますか。(関係性別に)一緒にお住まいの人数をお答えください。



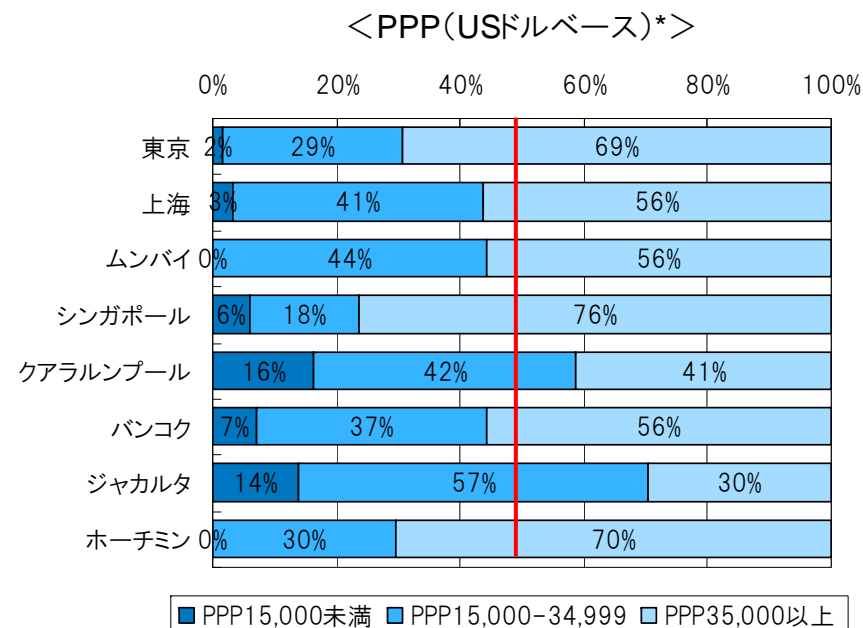
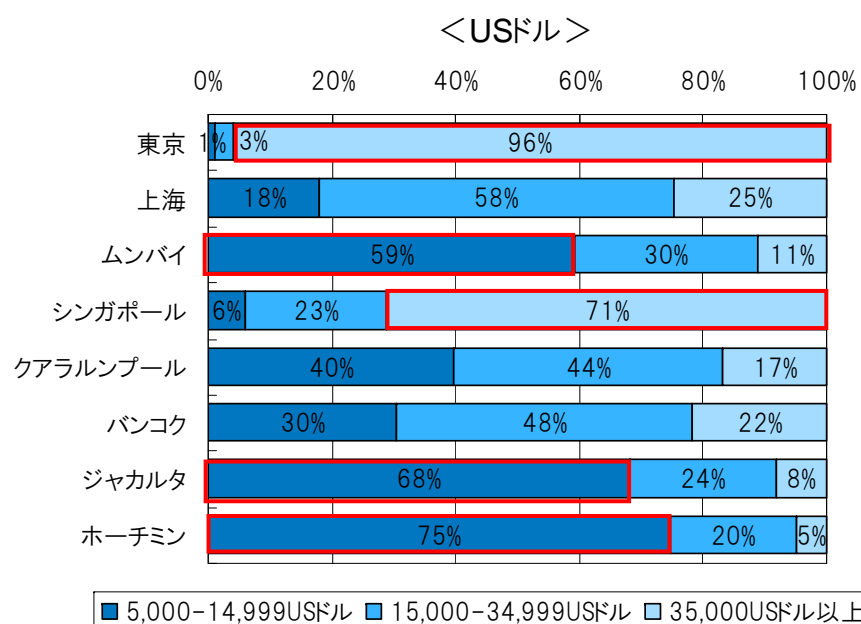
- 東京は1人暮らしや夫婦2人世帯が多く、1世代同居が40%弱と突出。
- ムンバイは3世代以上が同居している比率が、2世代同居比率を上回っている。

N=4,000

1-3. 年間世帯可処分所得(Q7)

東京・シンガポールは35,000USドル～、ジャカルタ・ホーチミン・ムンバイは5,000～14,999USドルがボリュームゾーン。しかしPPP換算では、ジャカルタ・クアラルンプール以外は過半数が35,000ドル以上。

Q.過去1年間(2011年1月～2011年12月)の世帯可処分所得をお答えください。



*PPP(購買力平価)

ある国である価格で買える商品が他国ならいくらで買えるかを示す交換レート。経済規模や賃金水準の国際比較などにしばしば使用される。商品価格を基準にするため、生活実感に近い値が求められる。

本調査では、「2005年国際比較プログラム」の購買力平価換算値を利用。

購買力平価(USドルベース) = 基準時点の為替レート × A国の物価指数 / 米国物価指数

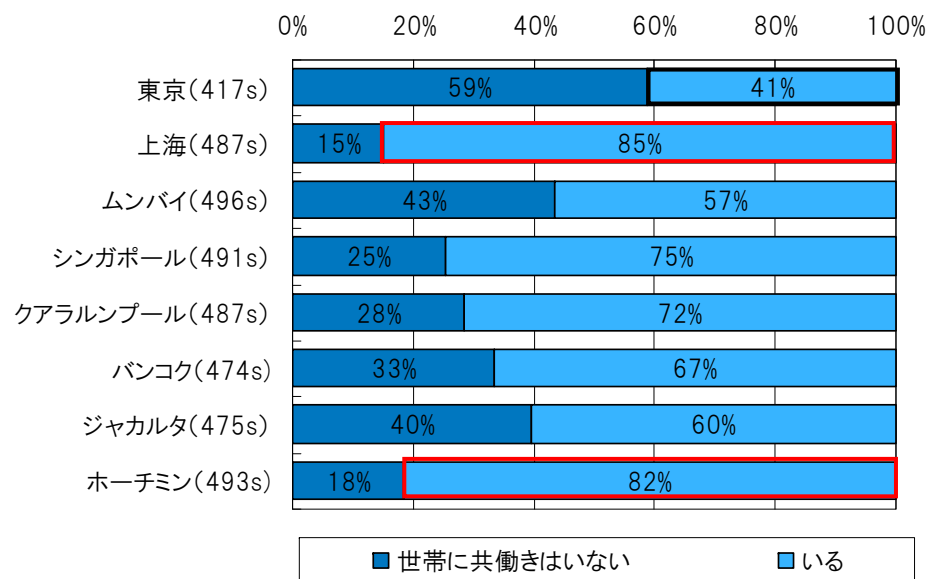
N=4,000

1-4. 共働き(Q10・世帯人数2人以上の世帯)／副収入(Q17)

アジア7都市の共働き、副収入比率は東京に比べ高い。

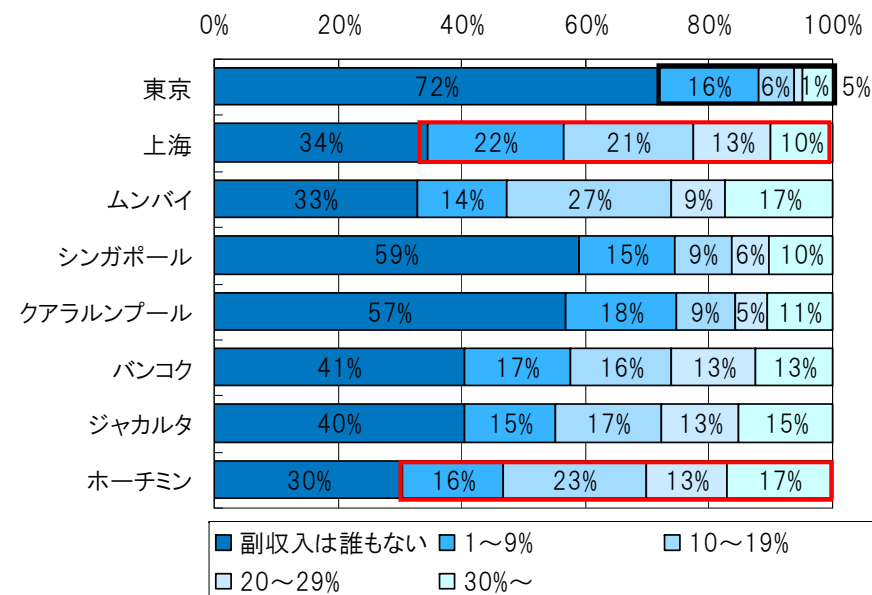
上海・ホーチミンは、より多くの収入を得ることへの積極性がうかがえる。

Q.お住まいの世帯に、共働き夫婦はいない (お住まいの[世帯]には、共働きの夫婦がいますか。あてはまる方全て選んでください。)



n=3,820

Q.あなたや一緒にお住まいの方が副収入(主な職業以外の収入、資産運用等も含む)がある場合、過去1年間(2011年1月~2011年12月)の世帯収入に対する副収入の比率をお答えください。

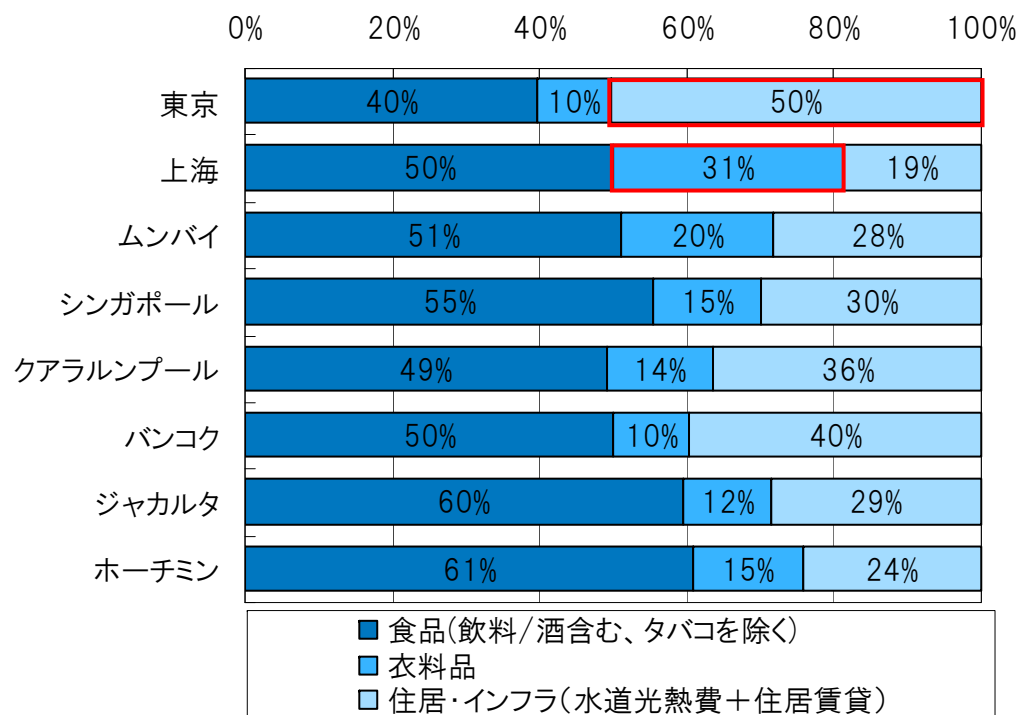


N=4,000

1-5. 基本消費支出の構成比(Q21)

アジア7都市は、住居賃貸料の高い東京に比べて、住居・インフラ比率が低い。
 上海は衣服にお金をかける傾向がある。

<ひと月あたり基本消費支出の構成比(2011年11月実績)>

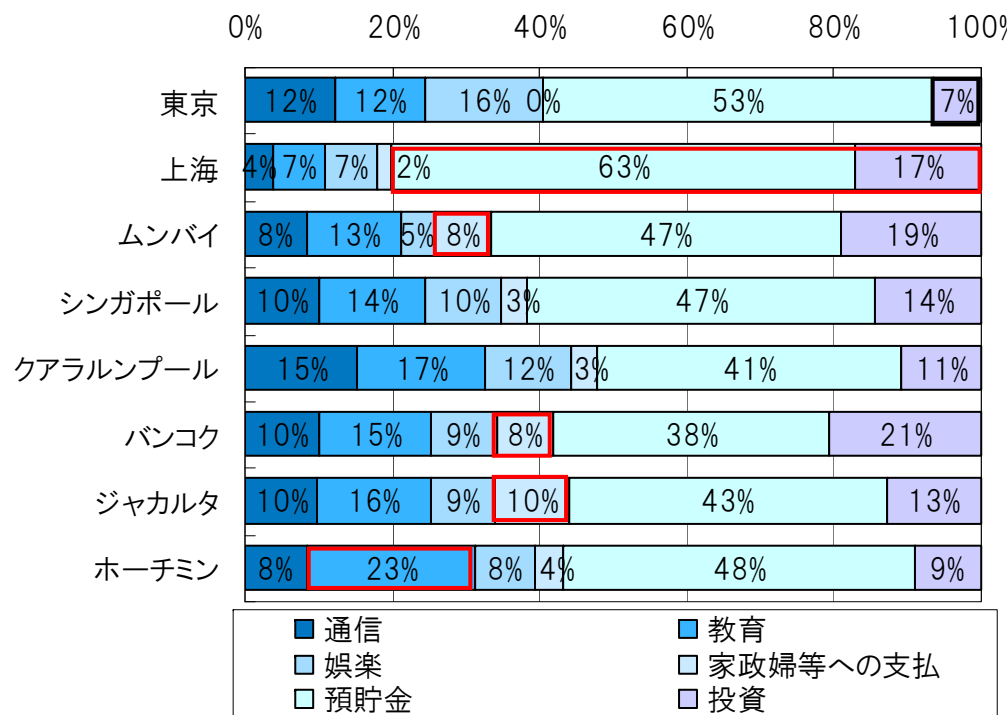


N=4,000

1-6. その他消費支出の構成比(Q21)

その他消費では、上海の貯蓄・投資比率の高さ、ホーチミンの教育比率の高さが顕著。
 また、ムンバイ・バンコク・ジャカルタは家政婦等への支払い比率が10%前後となっている。

<ひと月あたり主なその他消費支出の構成比(2011年11月実績)>



N=4,000

2. 耐久消費財

「耐久消費財」サマリー

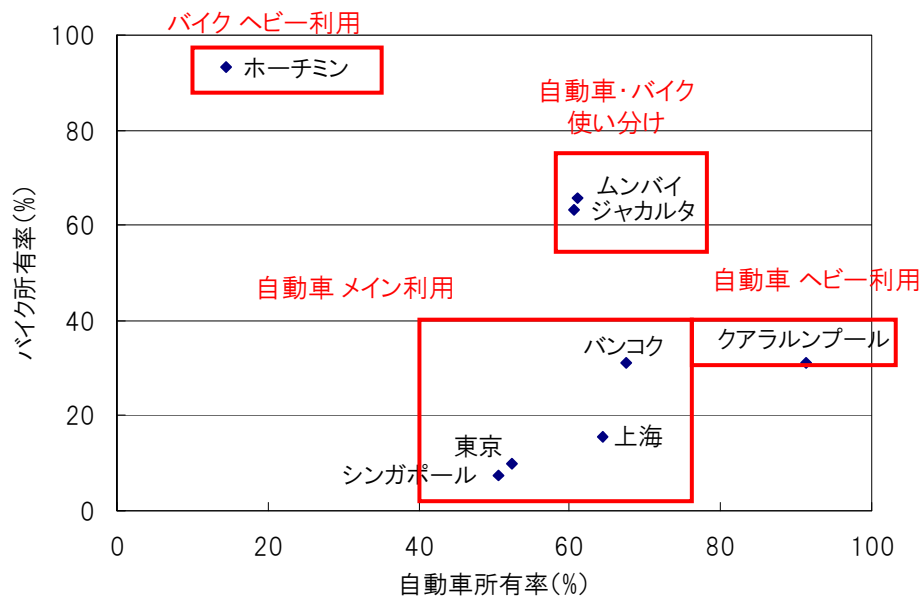
上海・ジャカルタの中間層以上は自動車の購入意向が旺盛で、外車への関心も高い。
 上海は薄型TVの所有率が80%を超えているものの、購入意向もアジア8都市中トップ。

自動車・バイク	自動車・バイク 所有状況	<ul style="list-style-type: none"> クアラルンプール・バンコク・上海は自動車所有が一般的で、ホーチミンはバイク所有が90%を超える。 ムンバイ・ジャカルタは自動車とバイク双方を所有する中間層以上世帯が多い模様。 東京とシンガポールは公共交通の利便性やコストの面から、自動車を持たない選択の世帯が多い。
	自動車・バイク 購入意向	<ul style="list-style-type: none"> 自動車購入意向が高い都市は上海・ジャカルタで、買い替え・買い増し意向も60%を超える。 東京と比べて、アジア他都市の外車の購入意向は高い。 電気自動車への関心が10%を超えるのは上海・ムンバイ・シンガポール・クアラルンプール・バンコク。 バイク購入意向がまだ高いのはムンバイ・ホーチミン・ジャカルタで約40%。
主要家電	基本家電 所有状況	<ul style="list-style-type: none"> 基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV全て)の所有比率が最も低いのはジャカルタで約60%。その他の都市は全て70%を超える。
	TV所有状況	<ul style="list-style-type: none"> 東京・上海・シンガポールは80~90%とほとんどの世帯が薄型TVを所有。 他の都市は薄型TV、ブラウン管TVともに40~60%の所有率となっている。
	TV購入意向	<ul style="list-style-type: none"> 上海は薄型TVの所有率が80%近くあるものの、購入意向が他都市を上回る水準で約40%。 薄型TVの購入意向率は、東京・上海以外は非所有世帯の購入意向が牽引している。
	その他家電 所有状況	<ul style="list-style-type: none"> 8都市全てで、60%以上の世帯がエアコンを所有している。 ジャカルタは電子レンジの所有率が低く、調理方法として浸透していない。

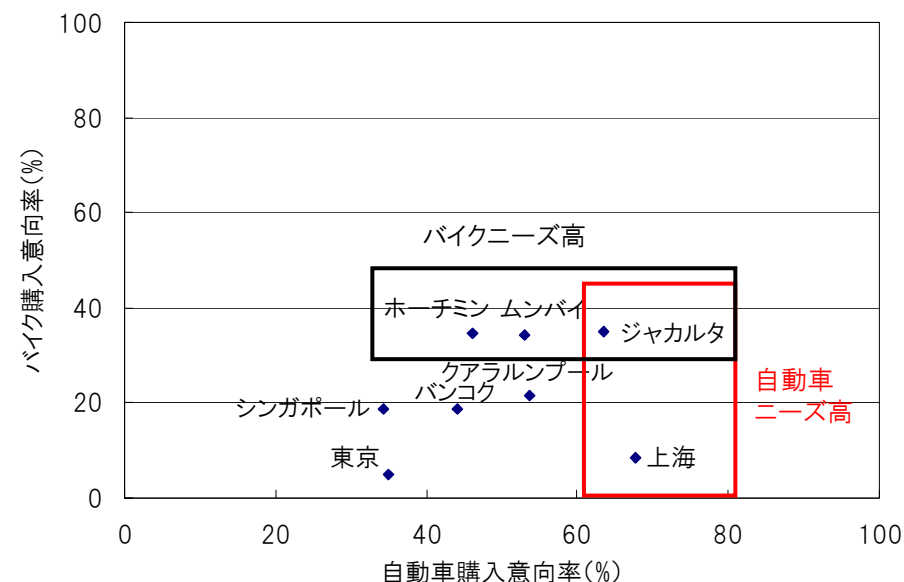
2-1. 自動車・バイクの所有／購入意向(Q23)

クアラルンプールは自動車、ホーチミンはバイク所有が一般的。ムンバイ・ジャカルタは自動車とバイク双方を所有する中間層以上世帯が多い模様。自動車の購入意向が60%を超えるのは上海・ジャカルタ。

＜自動車とバイクの所有率＞



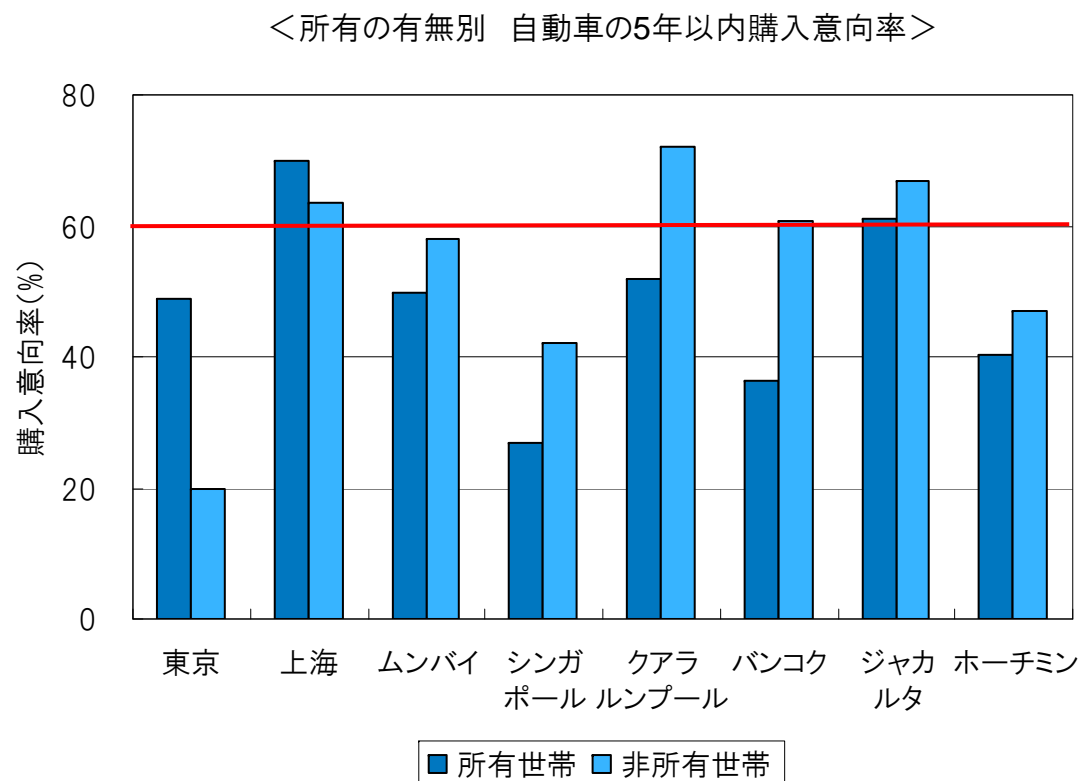
＜自動車とバイクの5年以内購入意向率＞



N=4,000

2-2. 自動車の買い替え・買い増し需要／新規需要(Q23)

上海・ジャカルタは所有世帯の購入意向比率(買い替え・買い増し需要)、非所有世帯の購入意向比率(新規需要)がともに60%を超える。



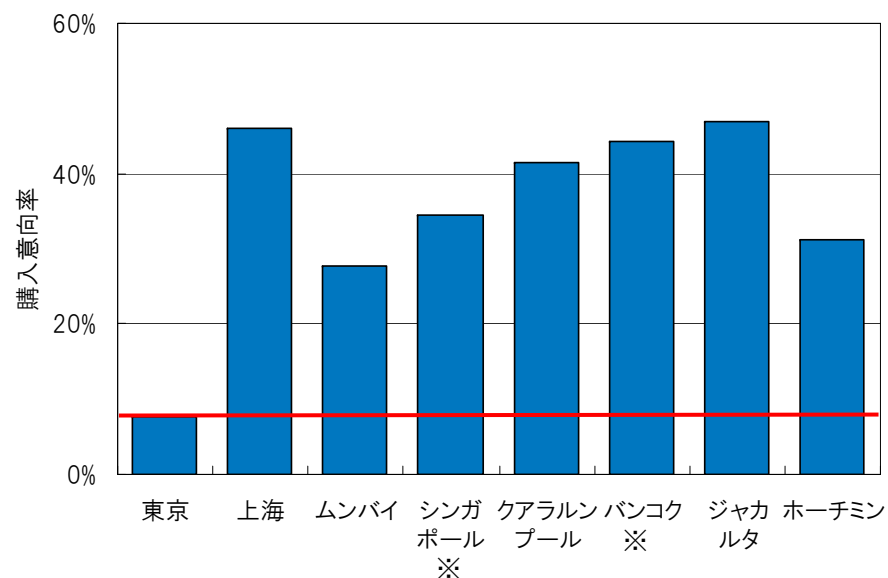
N=4,000

2-3. 外車と電気自動車の購入意向(Q23)

アジア7都市の外車の購入意向は、東京と比べ高い。

電気自動車への関心が10%を超えるのは上海・ムンバイ・シンガポール・クアラルンプール・バンコク。

<外車の5年以内購入意向率>

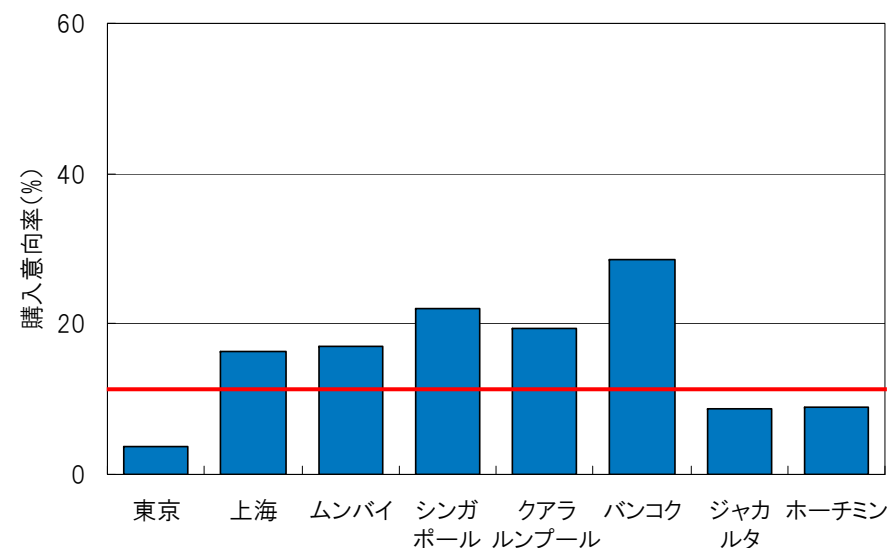


外車：海外メーカーが製造した自動車

※シンガポールとバンコクは国内メーカーが存在せず、海外メーカーのみのため参考値

N=4,000

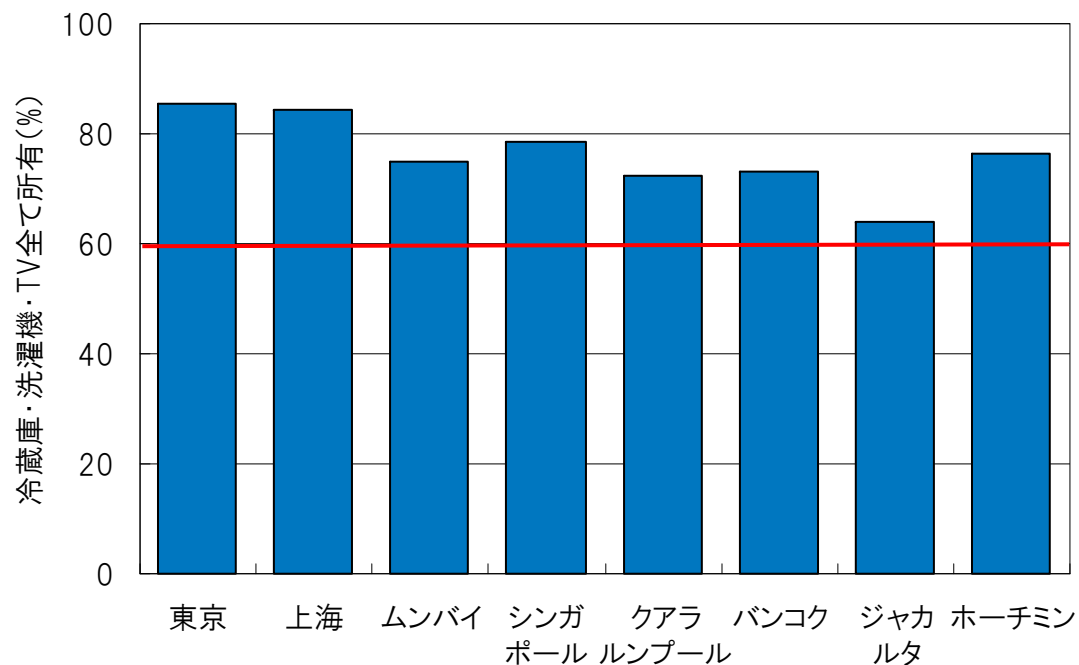
<電気自動車の5年以内購入意向率>



2-4. 基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV)の所有(Q23)

基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV全て)の所有比率が最も低いのはジャカルタで約60%。
 その他の都市は全て70%を超える。

＜基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV)を全て所有する世帯比率＞

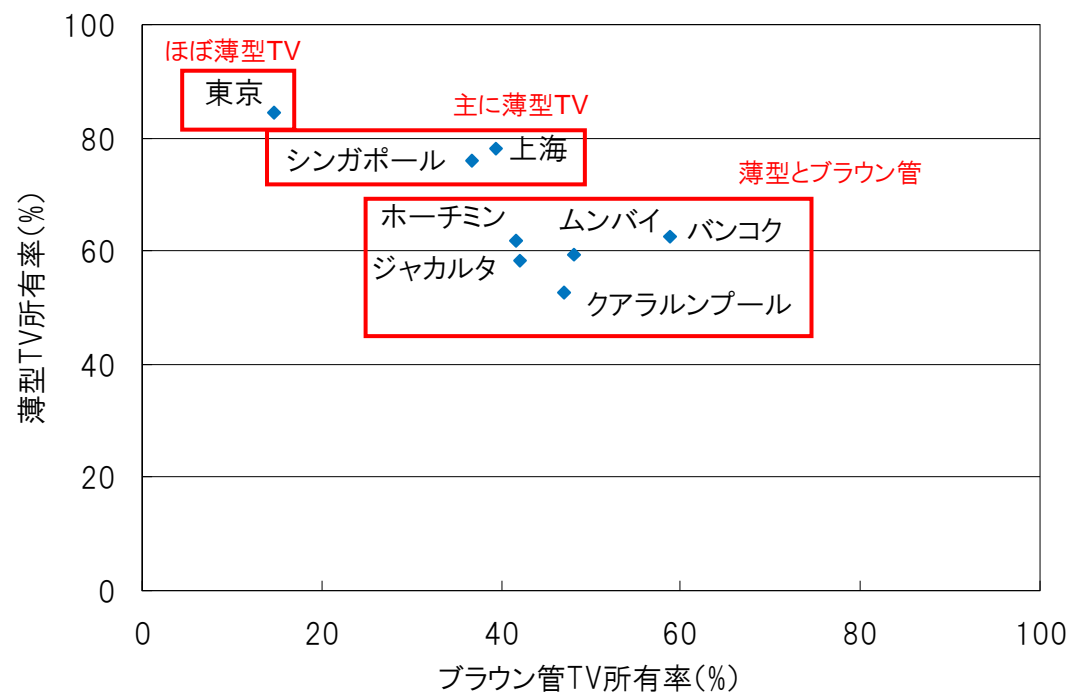


N=4,000

2-5. ブラウン管TVと薄型TVの所有(Q23)

東京・上海・シンガポールは80～90%とほとんどの世帯が薄型TVを所有。
 他の都市は薄型TV、ブラウン管TVともに40～60%の所有率となっている。

<ブラウン管TVと薄型TVの所有率>

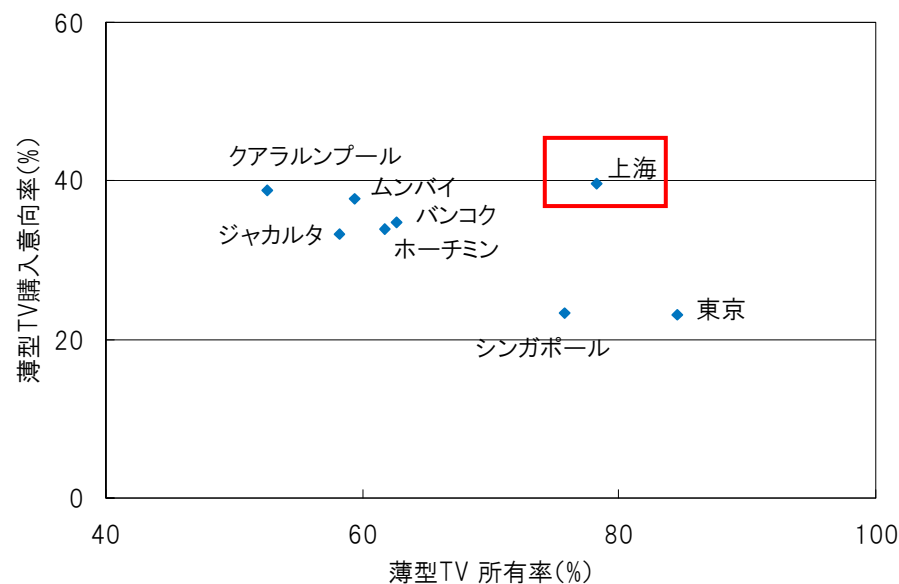


N=4,000

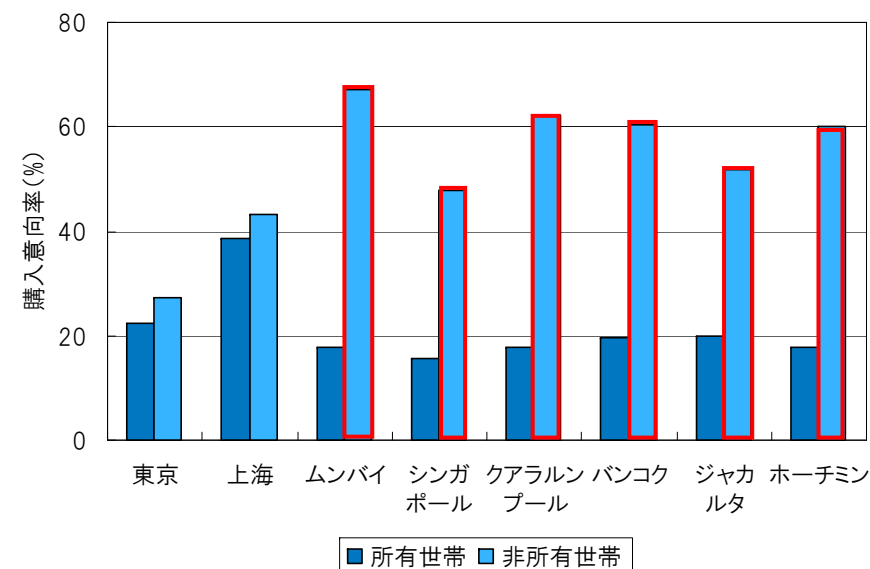
2-6. 薄型TVの所有／購入意向(Q23)

上海は所有率が80%近くあるものの、購入意向もクアラルンプール・ムンバイを上回る水準。
 ムンバイや東南アジア5都市は非所有世帯の購入意向率が高い。

＜薄型TVの所有率と5年以内購入意向率＞



＜所有の有無別 薄型TVの5年以内購入意向率＞

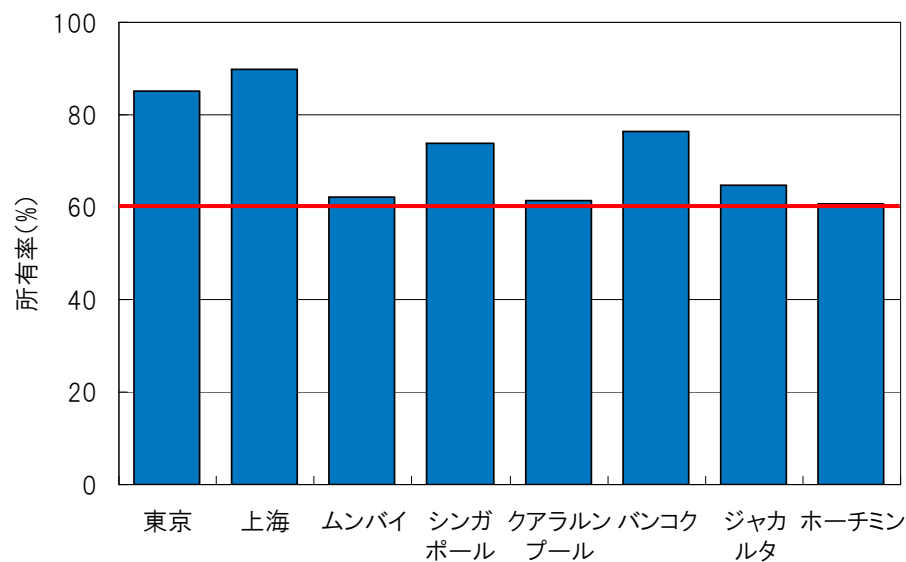


N=4,000

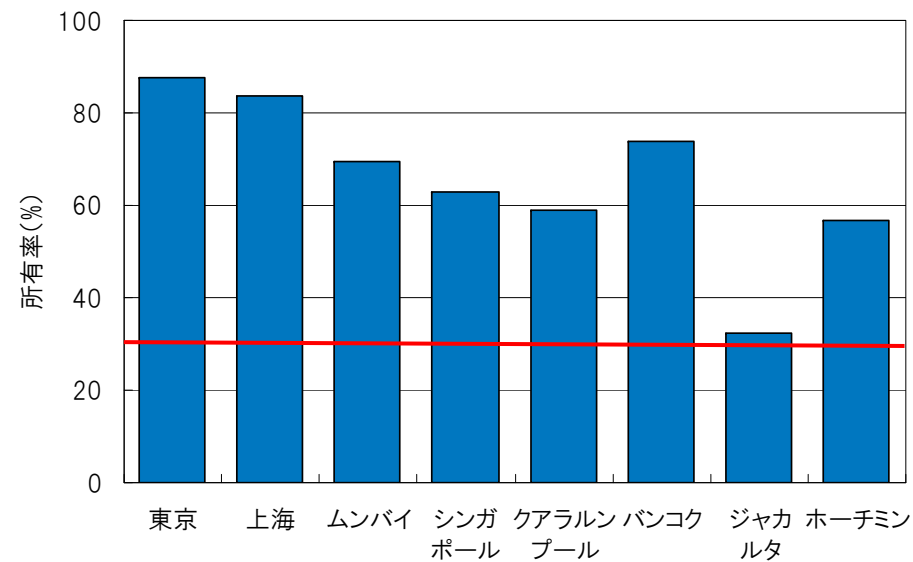
2-7. エアコンと電子レンジの所有(Q23)

エアコンは8都市全てで所有率が60%を超えるものの、
 電子レンジはジャカルタのみ約30%と普及が遅れている。

＜エアコンの所有率＞



＜電子レンジの所有率＞



N=4,000

3. 住まい

「住まい」サマリー

アジア7都市の中間層以上は、すでに70%程度が持ち家を所有。加えて住宅購入(買い替え)意向も旺盛。予算は東京ほど潤沢でないものの、購入時最重視項目には類似点が多く、郊外志向・戸建志向も強い。

住宅所有状況

- 東京以外の各都市の持ち家率は70%前後に達している。特に上海は80%を超える。
- ジャカルタ・ホーチミンは戸建の、上海・シンガポールは集合住宅の比率が高い。

住宅購入意向

- 各都市とも東京より住宅購入意向が高く、特にムンバイでは60%弱が3年以内に住宅購入を予定。

住宅購入時の最重視項目

- 東京の最重視項目は、「住宅価格」「生活環境」「交通の便」「周辺環境」など。そのうち、「住宅価格」「生活環境」は全都市で上位3位以内。シンガポール・クアラルンプール・ジャカルタ・上海・ホーチミンでは「価格上昇期待」も高い。

今後希望する住まい

- 各都市とも「都市部居住希望率」が50%を上回るが、全都市で現在の都市部居住率を下回る。
- 「戸建居住希望率」の高い都市と低い都市に分離。しかし多くの都市で「戸建居住希望率」が現状の戸建居住率を上回る。

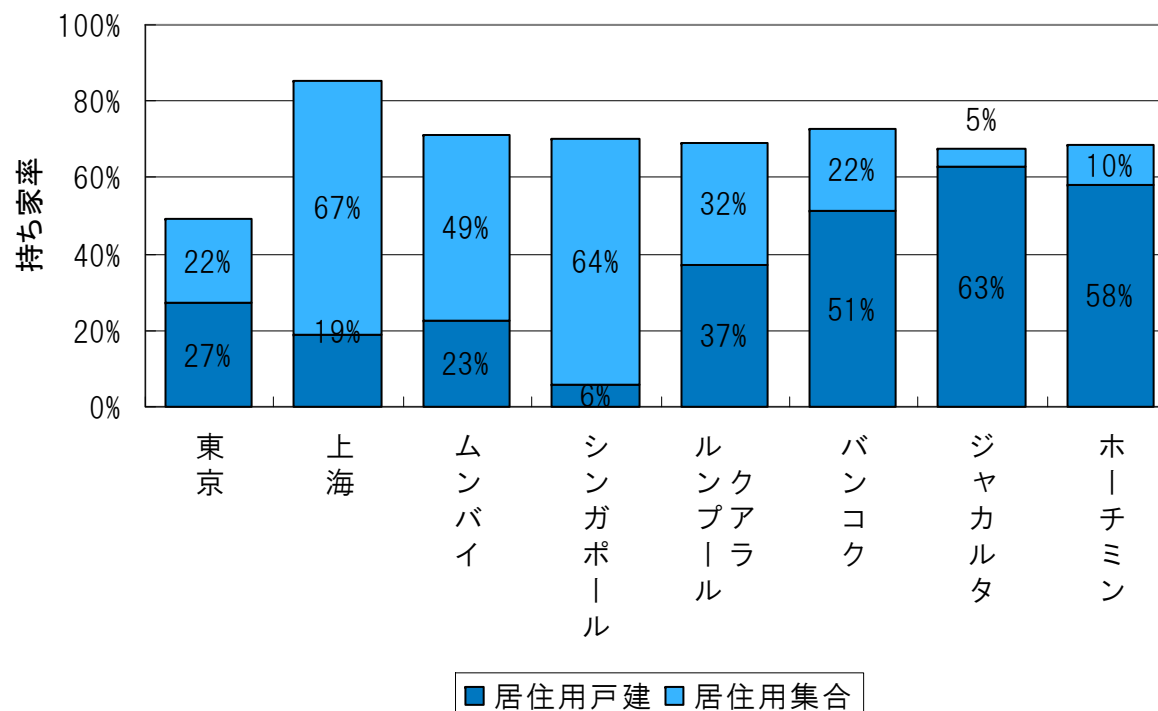
住宅購入予算

- 東京とシンガポールの予算が突出して高く、30%以上が3,800万円以上と回答。
- ムンバイ・ジャカルタ・ホーチミンは30%前後が380万円未満だが、ムンバイには1,900万円以上も10%強存在。

3-1. 住宅所有状況(Q23)

東京以外の各都市の持ち家率は70%前後に達している。特に上海は80%を超える。
 ジャカルタ・ホーチミンは戸建の、上海・シンガポールは集合住宅の比率が高い。

Q 次のうち、[お住まいの世帯で所有しているもの] をお選びください。お住まいの世帯を代表して、お答えください。

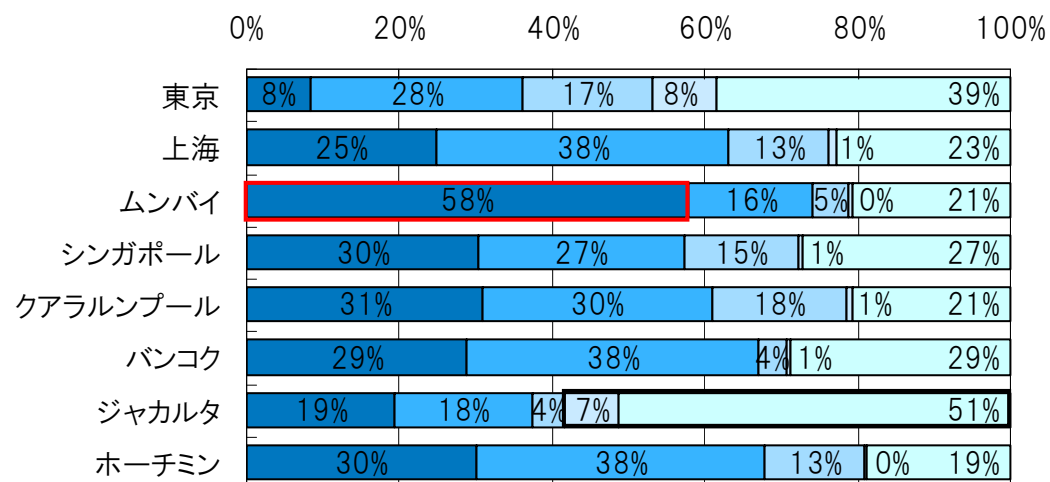


N=4,000

3-2. 住宅購入意向(Q39)

ムンバイでは60%弱が3年以内に住宅購入を予定。他都市も軒並み東京よりは購入意欲が旺盛。
 一方ジャカルタは過半数が「購入したくない」と回答。

Q.あなたは今後、居住用の住宅を購入する予定がありますか。



- 3年以内に購入を予定している
- 購入したいし、いつか購入するだろう
- 購入したいが、購入できないだろう(住宅価格が高い、収入が低いため、など)
- 購入したくない(借家のほうがよい)
- 購入したくない(すでに所有している)

N=4,000

3-3. 住宅購入時の最重視項目(Q43・購入意向者)(1/2)

東京で最重視項目の上位を占める「住宅価格」「生活環境」「交通の便」「周辺環境」のうち、「住宅価格」「生活環境」は全都市で上位3位以内。「周辺環境」も各都市で上位を占める。

Q.あなたが住宅を購入する(あるいは購入した)際に、最も重視することは何ですか。

順位	東京 (180s)	選択率 (%)	上海 (316s)	選択率 (%)	ムンバイ (371s)	選択率 (%)	シンガポール (287s)	選択率 (%)	クアラルンプール (305s)	選択率 (%)	バンコク (335s)	選択率 (%)	ジャカルタ (187s)	選択率 (%)	ホーチミン (339s)	選択率 (%)
1	住宅価格	21.7	生活環境	23.1	周辺環境	20.2	住宅価格	27.9	住宅価格	28.5	交通の便	31.0	周辺環境	27.3	周辺環境	22.4
2	生活環境	15.6	住宅価格	16.5	住宅価格	18.3	交通の便	16.4	周辺環境	16.7	生活環境	15.8	生活環境	18.2	住宅価格	15.0
3	交通の便	12.8	周辺環境	13.3	生活環境	14.8	生活環境	11.8	生活環境	15.3	住宅価格	15.2	住宅価格	16.0	生活環境	12.7
4	周辺環境	12.2	交通の便	12.3	エリアイメージ	6.7	価格上昇期待	10.1	価格上昇期待	9.1	周辺環境	10.1	交通の便	12.8	交通の便	12.7
5	間取り	8.3	耐震・耐久性	6.6	住戸の広さ	6.5	周辺環境	6.3	エリアイメージ	4.8	業者の信頼性	5.1	価格上昇期待	7.5	住戸の向き	9.7
6	馴れ・土地勘	7.8	価格上昇期待	6.3	交通の便	5.1	馴れ・土地勘	5.6	業者の信頼性	3.9	耐震・耐久性	4.5	エリアイメージ	4.8	価格上昇期待	6.2
7	耐震・耐久性	5.6	親類の近く	5.4	馴れ・土地勘	4.9	間取り	5.2	住戸の広さ	3.8	エリアイメージ	4.2	親類の近く	4.3	親類の近く	4.1
8	住戸の向き	3.3	間取り	4.4	価格上昇期待	4.0	親類の近く	4.9	間取り	3.7	間取り	3.0	住戸の広さ	2.7	住戸の広さ	3.8
9	エリアイメージ	2.8	住戸の向き	2.8	業者の信頼性	4.0	住戸の広さ	2.8	親類の近く	3.7	住戸の広さ	3.0	間取り	2.1	エリアイメージ	3.2
10	住戸の広さ	2.8	エリアイメージ	2.5	間取り	3.8	住戸の向き	2.4	住戸の設備	2.9	親類の近く	2.4	馴れ・土地勘	1.6	業者の信頼性	3.2
11	住戸の設備	2.8	馴れ・土地勘	2.5	耐震・耐久性	3.5	住戸の設備	2.1	交通の便	2.6	馴れ・土地勘	2.4	住戸の向き	1.1	間取り	2.1
12	業者の信頼性	2.2	住戸の広さ	2.2	親類の近く	3.0	耐震・耐久性	1.7	馴れ・土地勘	2.5	価格上昇期待	1.5	業者の信頼性	1.1	馴れ・土地勘	2.1
13	価格上昇期待	1.1	住戸の設備	1.3	住戸の向き	2.7	エリアイメージ	1.4	耐震・耐久性	1.1	住戸の向き	0.9	住戸の設備	0.5	耐震・耐久性	2.1
14	親類の近く	1.1	業者の信頼性	0.6	住戸の設備	2.4	業者の信頼性	1.4	住戸の向き	1.1	住戸の設備	0.6	耐震・耐久性	0.0	住戸の設備	0.6

注)東京における最重視項目上位4項目を着色。

生活環境:買物に便利/学校が近いなど

周辺環境:治安がよい/緑が多いなど

n=2,320・Q39で「3年以内に購入を予定している」「購入したいし、いつか購入するだろう」と答えた回答者

3-3. 住宅購入時の最重視項目(Q43・購入意向者)(2/2)

生活環境(上海)、交通の便(バンコク)、住戸の向き(ホーチミン)など、実態や習慣を暗示する項目も散見。シンガポール・クアラルンプール・ジャカルタ・上海・ホーチミンでは「価格上昇期待」も高い。

Q.あなたが住宅を購入する(あるいは購入した)際に、最も重視することは何ですか。

順位	東京 (180s)	選択率 (%)	上海 (316s)	選択率 (%)	ムンバイ (371s)	選択率 (%)	シンガポール (287s)	選択率 (%)	クアラルンプール (305s)	選択率 (%)	バンコク (335s)	選択率 (%)	ジャカルタ (187s)	選択率 (%)	ホーチミン (339s)	選択率 (%)
1	住宅価格	21.7	生活環境	23.1	周辺環境	20.2	住宅価格	27.9	住宅価格	28.5	交通の便	31.0	周辺環境	27.3	周辺環境	22.4
2	生活環境	15.6	住宅価格	16.5	住宅価格	18.3	交通の便	16.4	周辺環境	16.7	生活環境	15.8	生活環境	18.2	住宅価格	15.0
3	交通の便	12.8	周辺環境	13.3	生活環境	14.8	生活環境	11.8	生活環境	15.3	住宅価格	15.2	住宅価格	16.0	生活環境	12.7
4	周辺環境	12.2	交通の便	12.3	エリアイメージ	6.7	価格上昇期待	10.1	価格上昇期待	9.1	周辺環境	10.1	交通の便	12.8	交通の便	12.7
5	間取り	8.3	耐震・耐久性	6.6	住戸の広さ	6.5	周辺環境	6.3	エリアイメージ	4.8	業者の信頼性	5.1	価格上昇期待	7.5	住戸の向き	9.7
6	馴れ・土地勘	7.8	価格上昇期待	6.3	交通の便	5.1	馴れ・土地勘	5.6	業者の信頼性	3.9	耐震・耐久性	4.5	エリアイメージ	4.8	価格上昇期待	6.2
7	耐震・耐久性	5.6	親類の近く	5.4	馴れ・土地勘	4.9	間取り	5.2	住戸の広さ	3.8	エリアイメージ	4.2	親類の近く	4.3	親類の近く	4.1
8	住戸の向き	3.3	間取り	4.4	価格上昇期待	4.0	親類の近く	4.9	間取り	3.7	間取り	3.0	住戸の広さ	2.7	住戸の広さ	3.8
9	エリアイメージ	2.8	住戸の向き	2.8	業者の信頼性	4.0	住戸の広さ	2.8	親類の近く	3.7	住戸の広さ	3.0	間取り	2.1	エリアイメージ	3.2
10	住戸の広さ	2.8	エリアイメージ	2.5	間取り	3.8	住戸の向き	2.4	住戸の設備	2.9	親類の近く	2.4	馴れ・土地勘	1.6	業者の信頼性	3.2
11	住戸の設備	2.8	馴れ・土地勘	2.5	耐震・耐久性	3.5	住戸の設備	2.1	交通の便	2.6	馴れ・土地勘	2.4	住戸の向き	1.1	間取り	2.1
12	業者の信頼性	2.2	住戸の広さ	2.2	親類の近く	3.0	耐震・耐久性	1.7	馴れ・土地勘	2.5	価格上昇期待	1.5	業者の信頼性	1.1	馴れ・土地勘	2.1
13	価格上昇期待	1.1	住戸の設備	1.3	住戸の向き	2.7	エリアイメージ	1.4	耐震・耐久性	1.1	住戸の向き	0.9	住戸の設備	0.5	耐震・耐久性	2.1
14	親類の近く	1.1	業者の信頼性	0.6	住戸の設備	2.4	業者の信頼性	1.4	住戸の向き	1.1	住戸の設備	0.6	耐震・耐久性	0.0	住戸の設備	0.6

注)「価格上昇期待」選択率が5%以上の都市を赤枠で表示。

生活環境: 買物に便利/学校が近いなど

周辺環境: 治安がよい/緑が多いなど

n=2,320・Q39で「3年以内に購入を予定している」「購入したいし、いつか購入するだろう」と答えた回答者

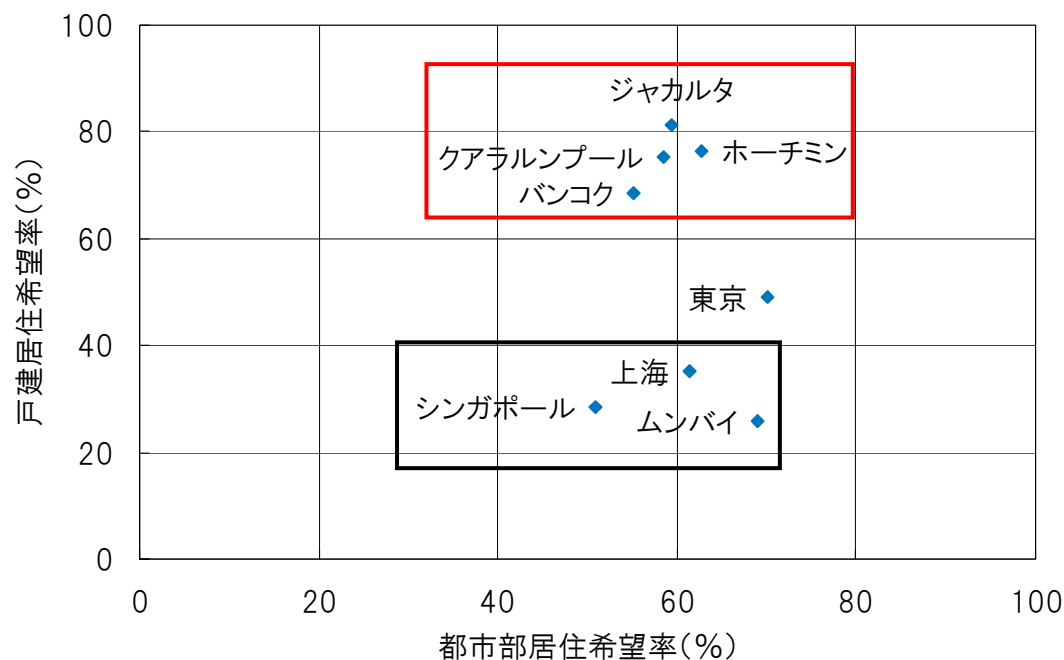
3-4. 今後希望する住まい(Q40・購入意向者)

居住地については、各都市とも都市部希望率が50%を上回る。

建て方については、戸建希望率の高い都市(4都市)と低い都市(3都市)に分離。東京は独自ポジション。

Q.あなたが今後住むであろう住居のタイプ(注)を教えてください。

今後に関しては、購入予定の方は[購入予定の住居]を、購入予定のない方は[住んでみたい住居]をお答えください。



(注)住居のタイプ

居住地:「都市部」または「郊外」

建て方:「戸建」または「集合住宅」

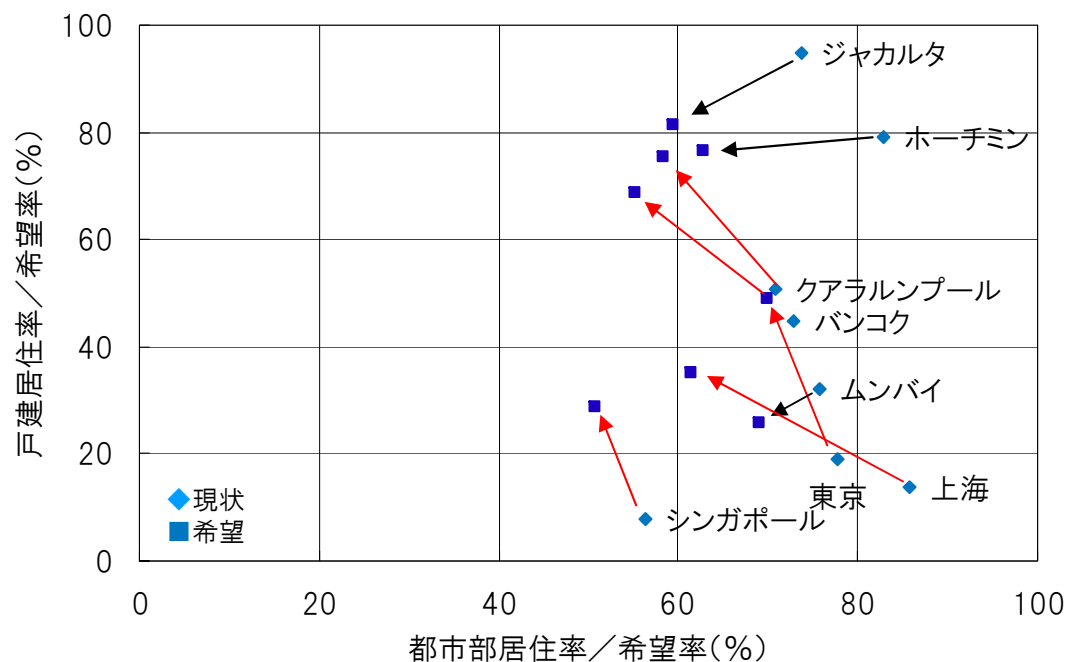
n=2,320・Q39で「3年以内に購入を予定している」「購入したいし、いつか購入するだろう」と答えた回答者

3-5. 現在の住まいと今後希望する住まいの比較(Q40・購入意向者)

全ての都市で、現在の都市部居住率よりも今後の都市部居住希望率が低い。
ジャカルタ・ホーチミン・ムンバイ以外の都市では、今後の戸建居住希望率が実態比率を上回る。

Q.あなたの現在の住居のタイプ、今後住むであろう住居のタイプ(注)を教えてください。

今後に関しては、購入予定の方は[購入予定の住居]を、購入予定のない方は[住んでみたい住居]をお答えください。



(注)住居のタイプ

居住地:「都市部」または「郊外」

建て方:「戸建」または「集合住宅」

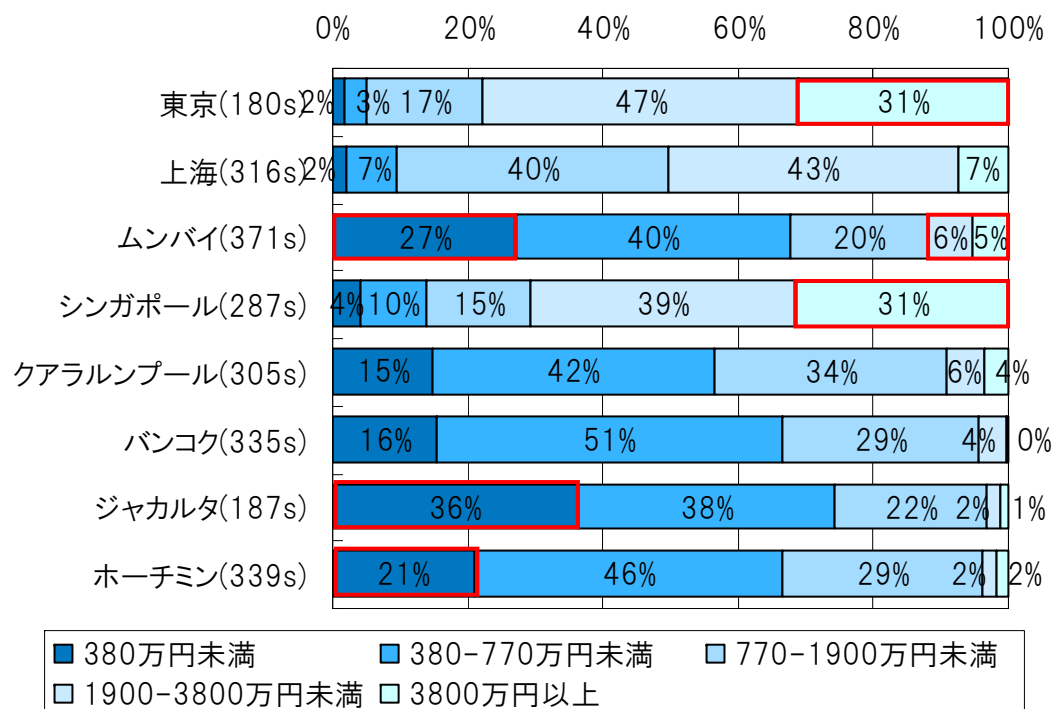
n=2,320・Q39で「3年以内に購入を予定している」「購入したいし、いつか購入するだろう」と答えた回答者

3-6. 住宅購入予算(Q41・購入意向者)

東京とシンガポールの予算が突出して高く、30%以上が3,800万円以上と回答。

ムンバイ・ジャカルタ・ホーチミンは30%前後が380万円未満だが、ムンバイには1,900万円以上も10%強存在。

Q.購入する住宅の予算をお答えください。



n=2,320・Q39で「3年以内に購入を予定している」「購入したいし、いつか購入するだろう」と答えた回答者

4. インフラ満足度

「インフラ」サマリー

基本インフラ、環境、交通インフラともに「不満」との回答が相対的に多い都市はジャカルタ・ホーチミン。東京は電力・教育・航空、バンコクとクアラルンプールは遠距離の鉄道・バスでの不満が多い傾向。

基本 インフラ	電力・ガス	<ul style="list-style-type: none"> ジャカルタ・ホーチミンでの電力インフラ改善需要が顕在化している。 電力・ガス共に東京は、「不満」「やや不満」比率が50%弱と高い。東日本大震災の影響があると推測。
	上下水道	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道に「不満」を抱いている都市は、ジャカルタ・ホーチミン。特に下水道に対して、「不満」「やや不満」比率が70%以上と高い。河川の匂い等も影響か。
	ごみ・衛生	<ul style="list-style-type: none"> 「不満」「やや不満」比率が70%を超える都市はジャカルタ・ホーチミン。
環境	居住地	<ul style="list-style-type: none"> 「不満」「やや不満」比率が60%を超える都市はホーチミン。
	ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ジャカルタの「不満」「やや不満」比率が40%を超えて最も高い。脆弱な交通・ネット環境が影響か。
	公園・緑	<ul style="list-style-type: none"> 「不満」との回答が約40%と高い都市はジャカルタ。人口集中による弊害があらわれている。
	病院	<ul style="list-style-type: none"> ムンバイ以外大きな差がないものの、ホーチミンの「不満」「やや不満」比率が40%を超えて最も高い。
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ジャカルタ・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率が高く、改善余地が大きい。
	インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ジャカルタ・クアラルンプールにて「不満」「やや不満」比率が高い。
交通 インフラ	道路	<ul style="list-style-type: none"> 他のインフラに比べて各都市とも「不満」「やや不満」比率が高く、早急な環境整備が求められている。特にジャカルタは、「不満」との回答が道路(都市内)で50%、道路(都市間)でも30%を超えている。
	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 都市内鉄道の「不満」「やや不満」比率が高い都市はジャカルタ・ホーチミン。特にジャカルタは「不満」との回答が50%超と突出。遠距離鉄道では、バンコク・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率も高い。
	バス	<ul style="list-style-type: none"> 都市内バスの「不満」「やや不満」比率が突出している都市はジャカルタ。遠距離バスでは遠距離鉄道同様、ジャカルタ・ホーチミンに加えバンコク・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率も高い。
	航空	<ul style="list-style-type: none"> 道路・鉄道・バスと異なり、最も「不満」「やや不満」比率が高い都市は東京。

4-1. インフラ満足度の平均点(Q37・利用者)

ジャカルタ・ホーチミンは特に衛生面・交通面で「不満」との回答が多くなっている。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。

		基本インフラ					環境						交通インフラ						
		電力	ガス	上水道	下水道	ごみ/衛生	居住地としての環境	病院施設	ビジネスの場としての環境	公園/緑地環境	インターネット環境	教育環境	道路(都市内)	道路(都市間)	鉄道(都市内)	鉄道(遠距離)	バス(都市内)	バス(遠距離)	航空
東京	平均値	2.5	2.6	2.7	2.7	2.6	2.7	2.8	2.9	2.6	3.1	2.7	2.6	2.6	3.0	2.9	2.8	2.7	2.7
	回答者数	500	482	496	494	500	500	488	476	492	500	444	491	485	498	479	459	432	432
上海	平均値	3.2	3.2	2.9	2.7	2.5	2.7	2.8	2.9	2.9	2.8	2.8	2.4	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.9
	度数	500	498	497	498	499	500	497	500	499	500	496	499	496	480	483	494	485	484
ムンバイ	平均値	3.6	3.5	3.3	2.8	2.8	3.2	3.3	3.3	2.8	3.3	3.3	2.9	2.9	3.1	3.1	3.1	3.0	3.3
	回答者数	500	498	499	497	495	497	493	493	494	499	497	497	492	497	496	495	488	463
シンガポール	平均値	3.0	3.0	3.1	3.0	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.9	2.8	2.6	—	2.2	—	2.3	—	3.0
	回答者数	500	470	500	493	494	499	476	485	492	498	490	497	—	459	—	487	—	477
クアラルンプール	平均値	3.2	3.2	2.9	2.8	2.4	2.8	2.8	2.8	2.6	2.6	2.7	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.7
	回答者数	499	428	485	480	496	496	487	494	497	497	486	493	490	422	402	409	403	434
バンコク	平均値	3.4	3.2	3.1	2.5	2.4	2.7	2.9	2.9	2.5	2.9	2.8	2.4	2.5	2.4	2.3	2.1	2.3	3.0
	回答者数	500	470	499	493	495	499	500	487	494	497	483	490	489	435	425	469	452	437
ジャカルタ	平均値	2.9	2.9	2.4	1.9	1.8	2.7	2.7	2.7	2.0	2.7	2.6	1.7	2.0	1.7	2.0	1.5	1.9	2.6
	回答者数	500	449	349	444	488	492	488	460	493	494	477	496	480	374	389	416	388	454
ホーチミン	平均値	2.9	2.8	2.6	1.9	2.1	2.3	2.5	2.9	2.5	3.0	2.8	2.0	2.2	2.1	2.2	2.0	2.1	2.9
	回答者数	500	486	483	493	497	500	487	482	497	497	494	494	473	280	351	408	385	429

注)「平均値」は、4段階評価(4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」)の回答者合計の平均。

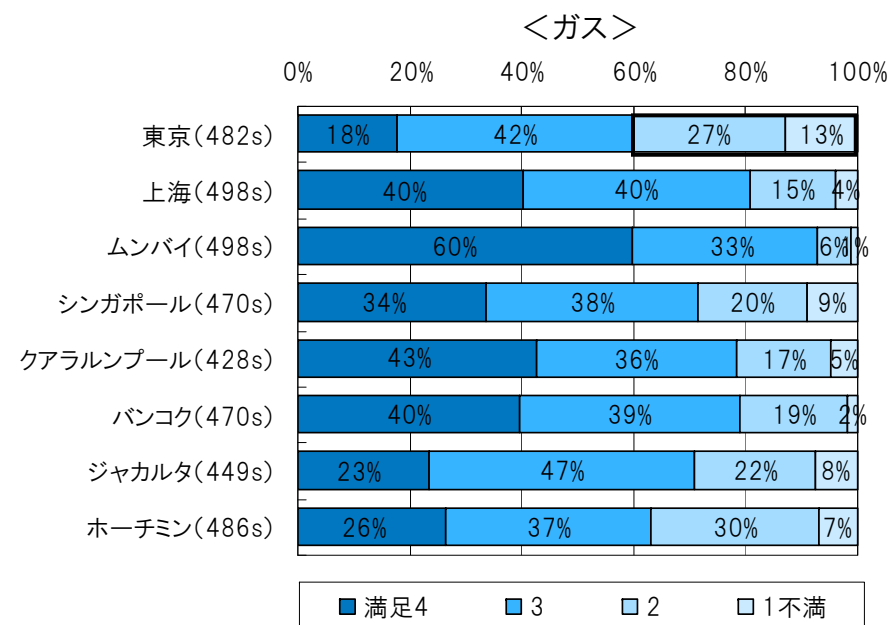
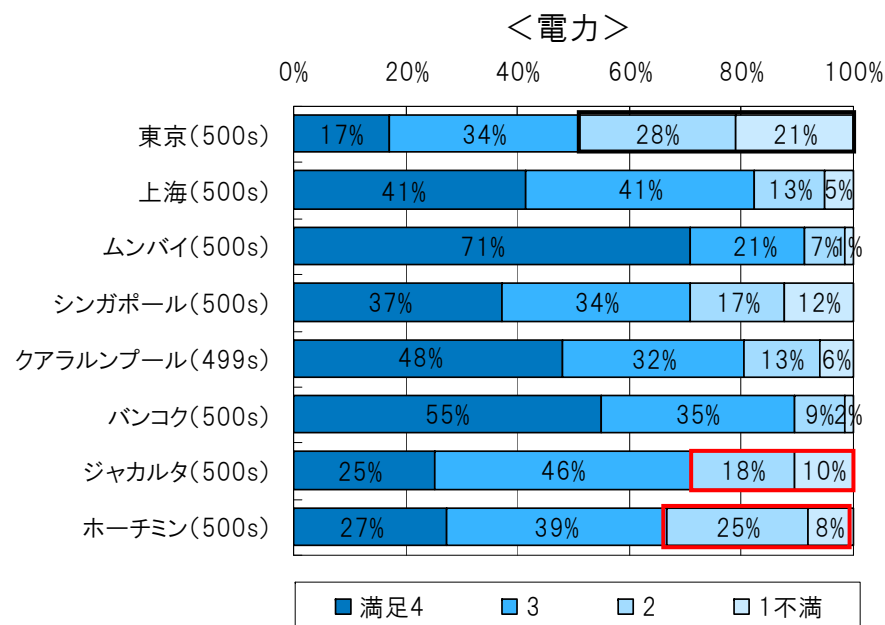
■ 3以上
 ■ 2以下

4-2. 基本インフラの満足度 – 電力・ガス(Q37・利用者)

ジャカルタ・ホーチミンでの電力インフラ改善需要が顕在化している。

電力・ガス共に東京は、「不満」「やや不満」比率が50%弱と高い。東日本大震災の影響があると考えられる。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



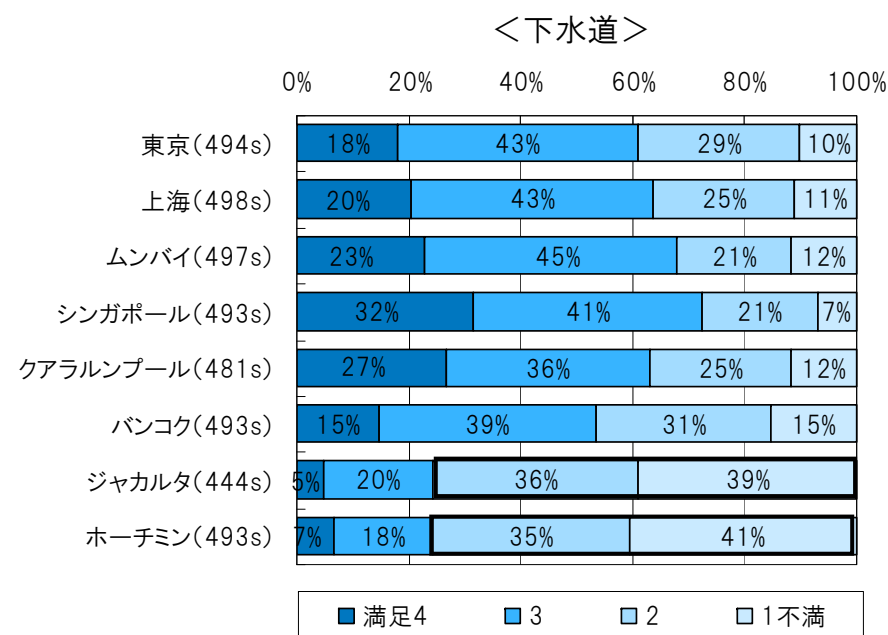
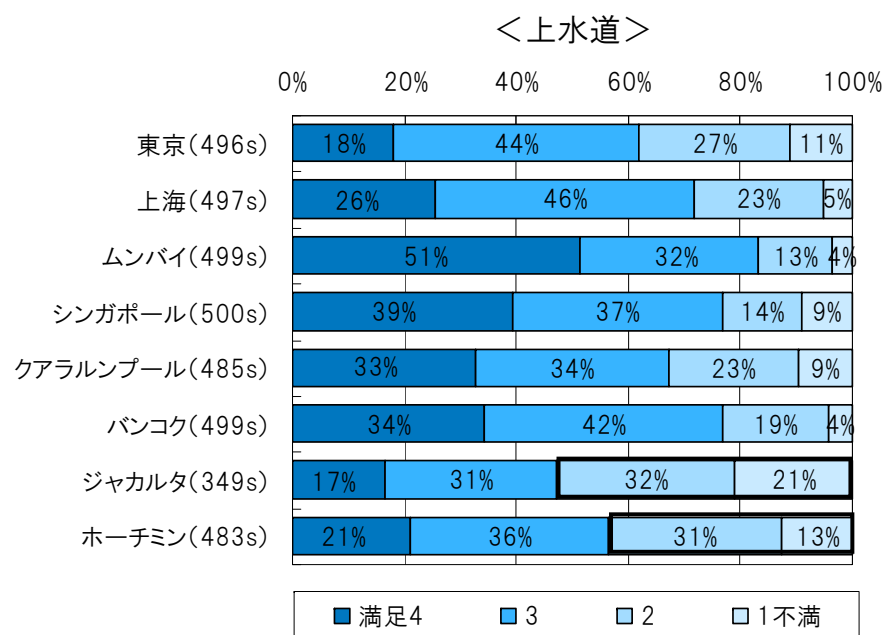
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-3. 基本インフラの満足度 – 上下水道(Q37・利用者)

上下水道に「不満」を強く抱いている都市は、ジャカルタ・ホーチミン。
 特に下水道に対して、「不満」「やや不満」比率が70%以上と高い。河川の匂い等も影響か。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



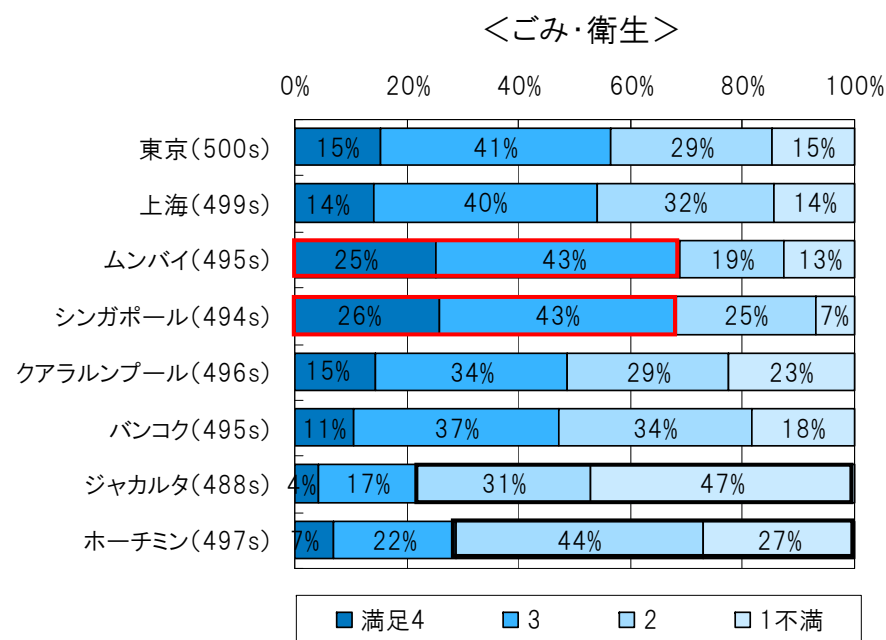
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-4. 基本インフラの満足度 –ごみ・衛生(Q37・利用者)

ごみ・衛生で「不満」「やや不満」比率が70%を超える都市はジャカルタ・ホーチミン。
 特にジャカルタは、「不満」との回答が50%弱と高く、衛生環境の改善余地が大きいと考えられる。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

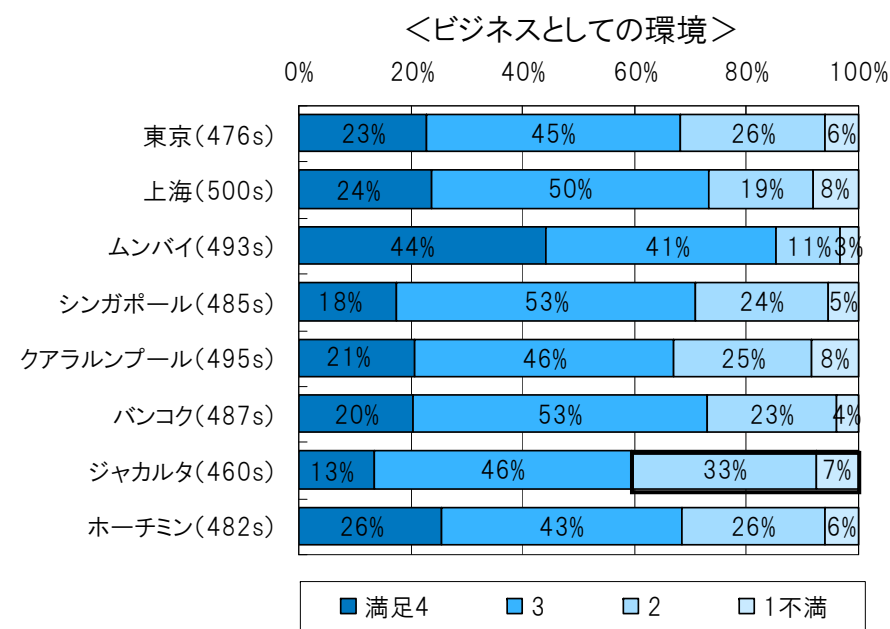
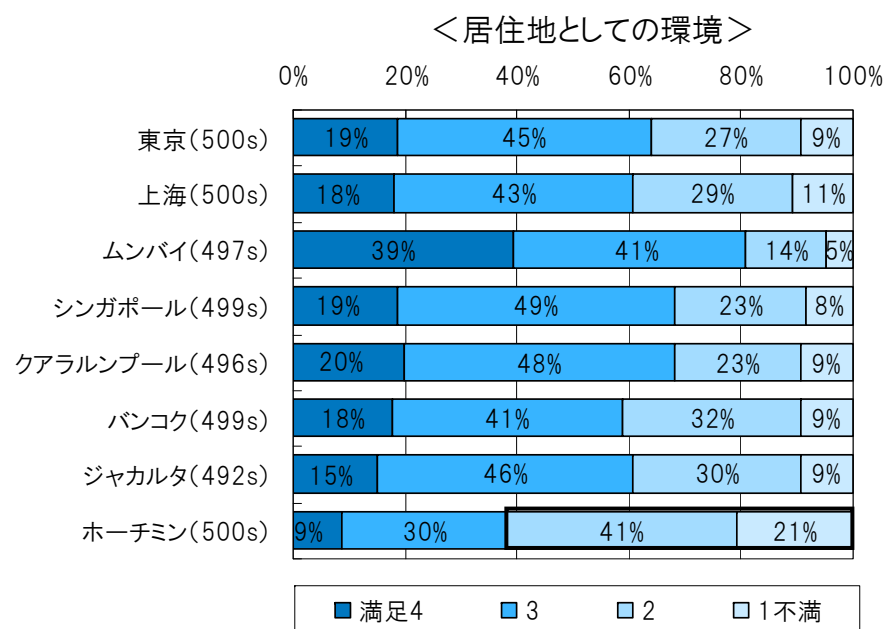
出所: 日本総研作成

4-5. 環境の満足度 –居住地／ビジネス(Q37・利用者)

居住地としての環境で「不満」「やや不満」比率が60%を超える都市はホーチミン。

ビジネスとしての環境ではジャカルタの「不満」「やや不満」比率が40%。脆弱な交通・ネット環境が影響か。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



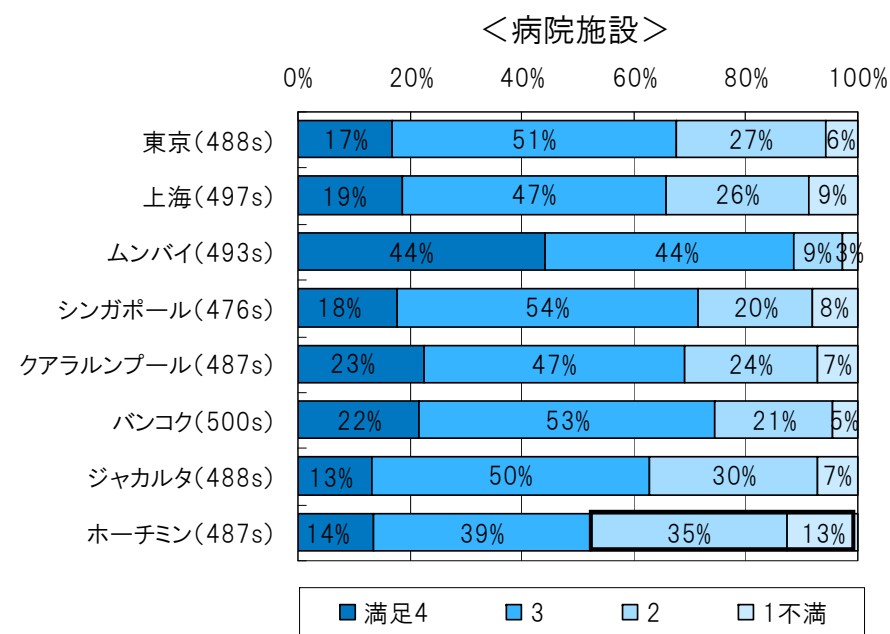
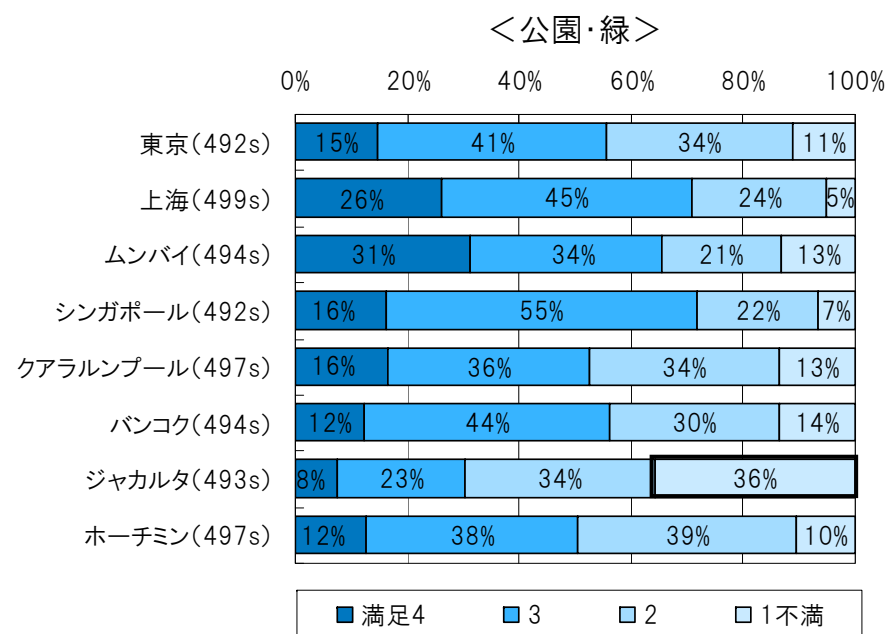
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-6. 環境の満足度 –公園／病院(Q37・利用者)

ジャカルタは公園・緑で「不満」との回答が40%弱と高く、人口集中の弊害があらわれている。
 病院施設はムンバイ以外大差がないものの、ホーチミンの「不満」「やや不満」比率が40%を超えて最も高い。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



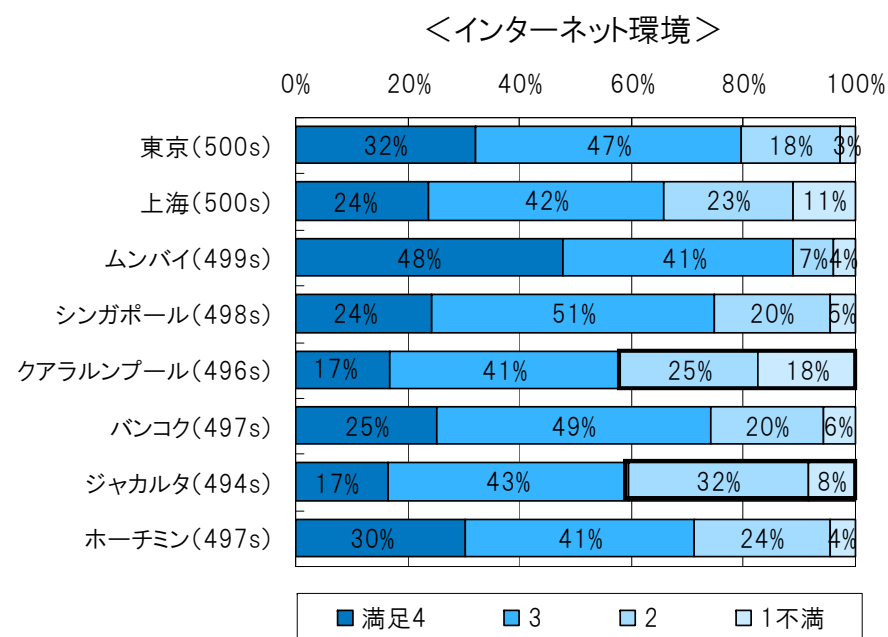
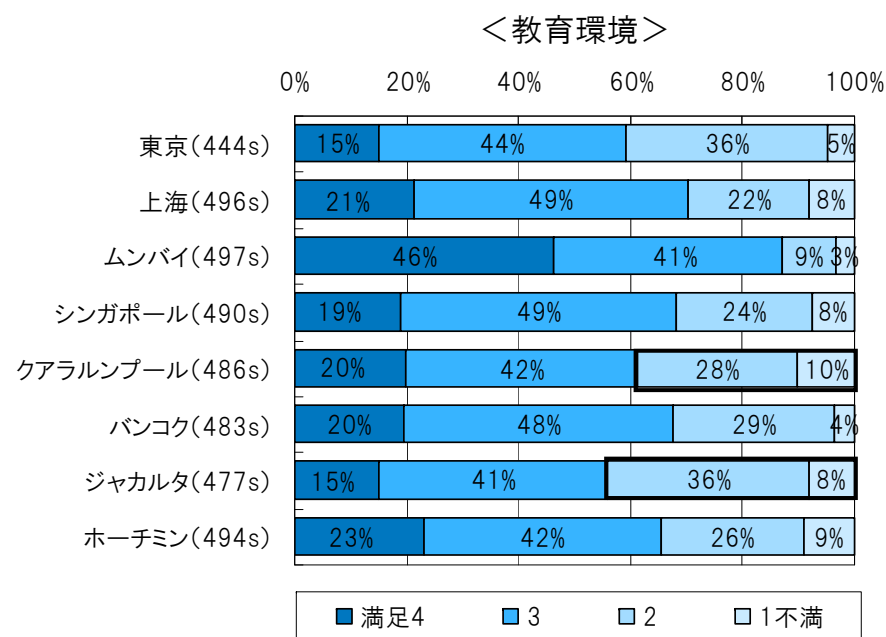
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-7. 環境の満足度 –教育／インターネット(Q37・利用者)

教育環境ではジャカルタ・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率が高く、改善余地が大きい。
 インターネット環境は、ジャカルタ・クアラルンプールで「不満」「やや不満」比率が高い。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



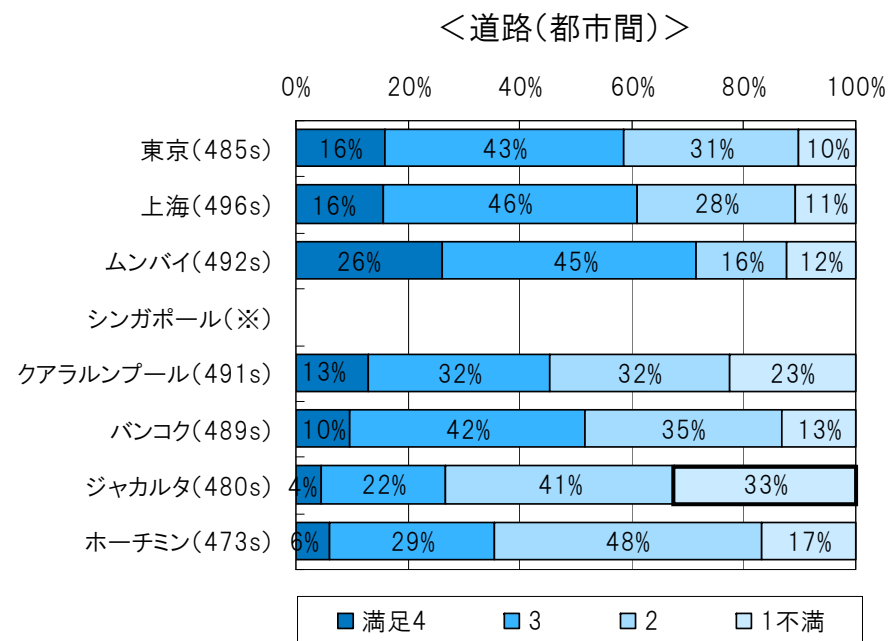
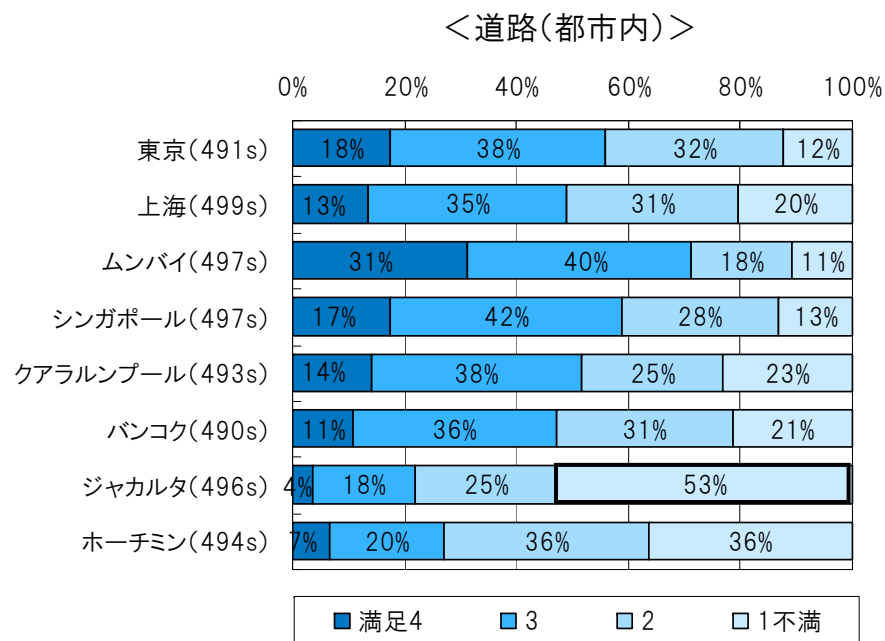
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-8. 交通インフラの満足度 –道路(Q37・利用者)

他のインフラに比べて各都市とも「不満」「やや不満」比率が高く、早急な環境整備が求められている。
 ジャカルタは「不満」比率が道路(都市内)で50%、道路(都市間)でも30%を超え、渋滞の深刻さがうかがえる。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



※シンガポールは、該当するインフラがないため、除外

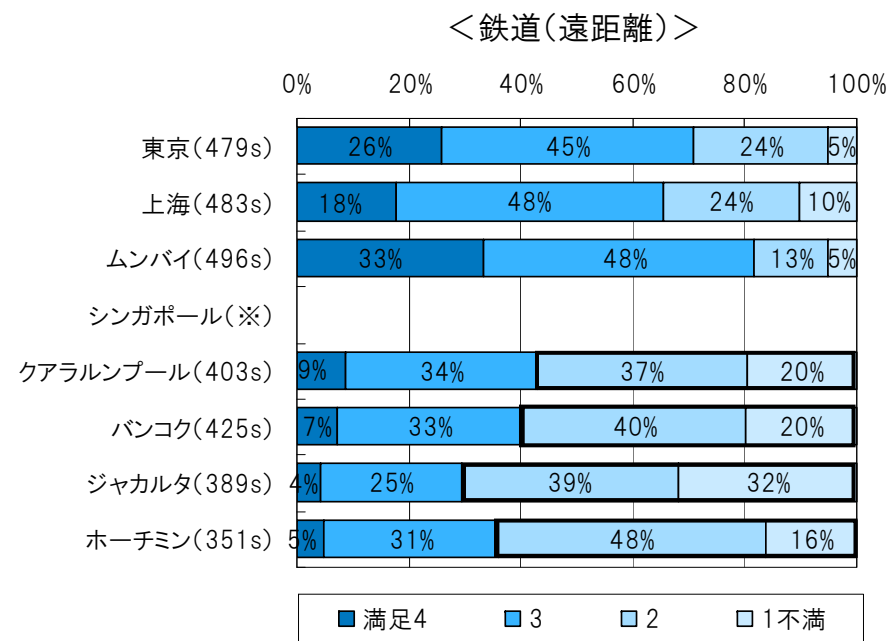
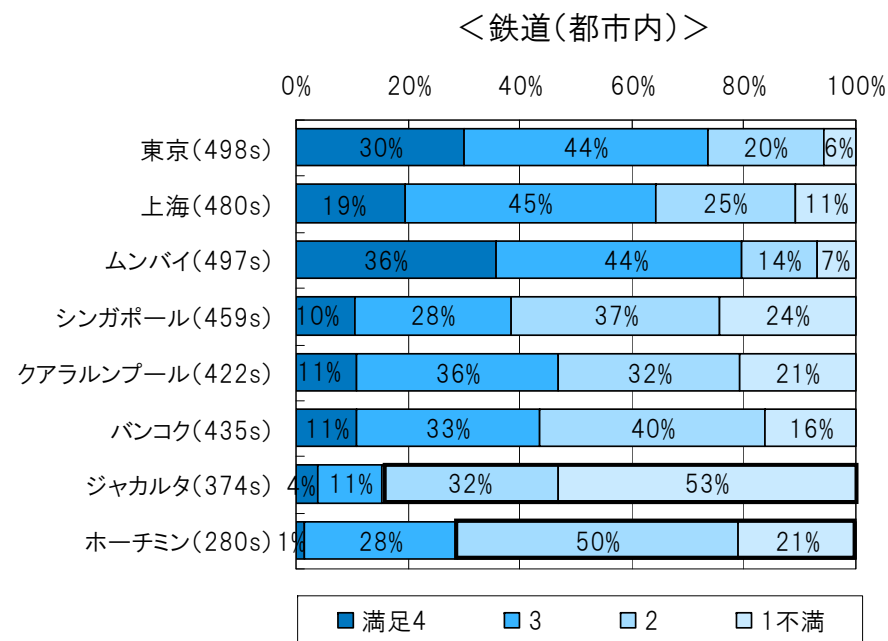
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-9. 交通インフラの満足度 – 鉄道(Q37・利用者)

鉄道(都市内)の「不満」「やや不満」比率が高い都市はジャカルタ・ホーチミン。特にジャカルタは「不満」との回答が50%超と突出。鉄道(遠距離)では、バンコク・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率も高い。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



※シンガポールは、該当するインフラがないため、除外

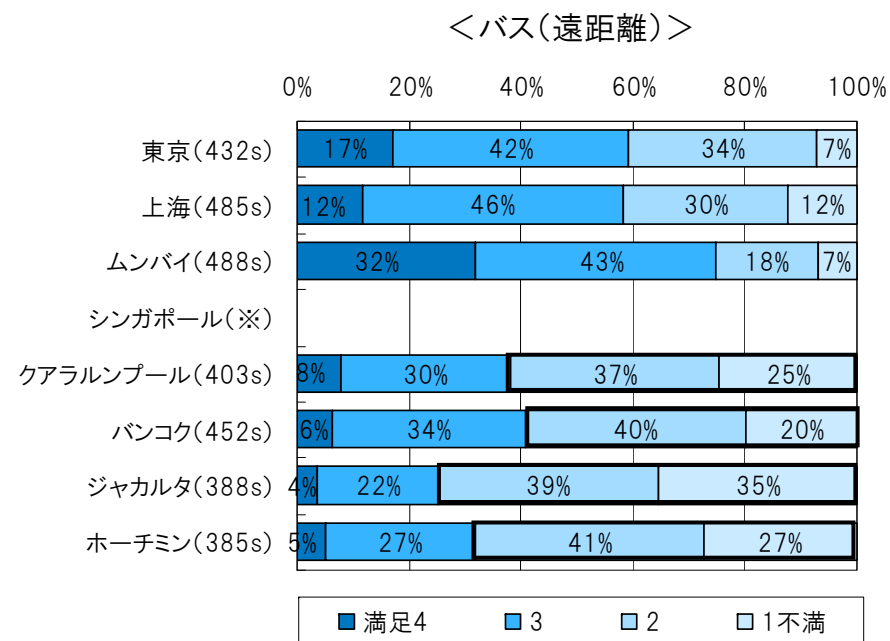
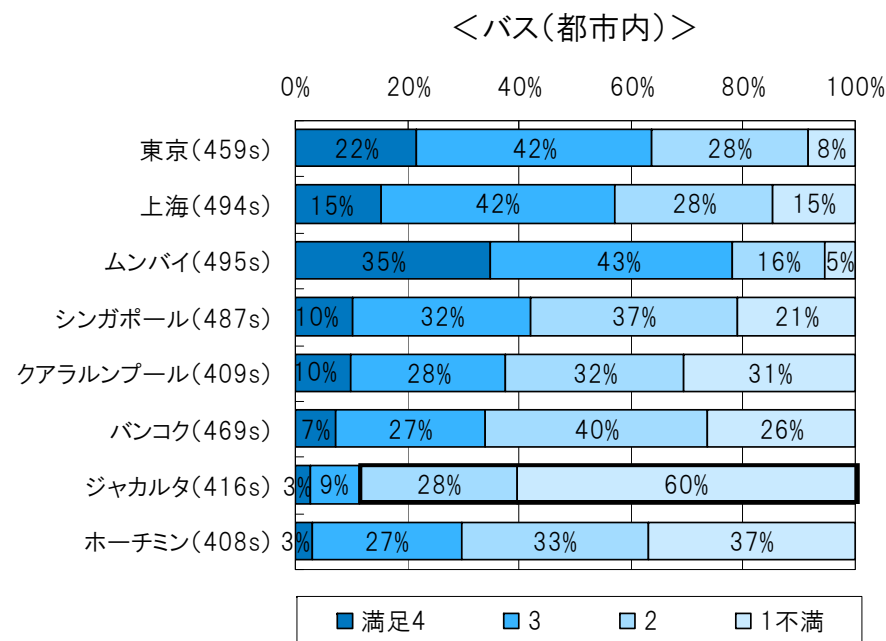
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-10. 交通インフラの満足度 –バス(Q37・利用者)

バス(都市内)の「不満」「やや不満」比率が突出している都市はジャカルタ。バス(遠距離)の場合は、鉄道(遠距離)同様、ジャカルタ・ホーチミンだけでなく、バンコク・クアラルンプールの「不満」「やや不満」比率も高い。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



※シンガポールは、該当するインフラがないため、除外

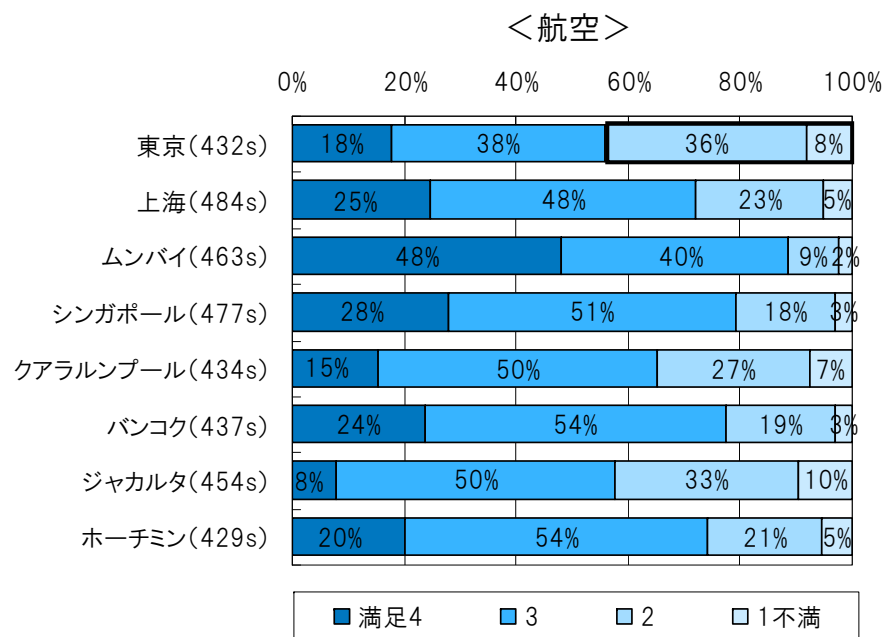
注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

4-11. 交通インフラの満足度 –航空(Q37・利用者)

道路・鉄道・バスと異なり、最も「不満」「やや不満」比率が高い都市は東京。
 空港へのアクセスの悪さが影響を与えていると考えられる。

Q. あなたは、【住んでいる都市】で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。



注) 4段階評価を以下のように読み替え: 4「満足」、3「やや満足」、2「やや不満」、1「不満」

出所: 日本総研作成

5. 健康

「健康」サマリー

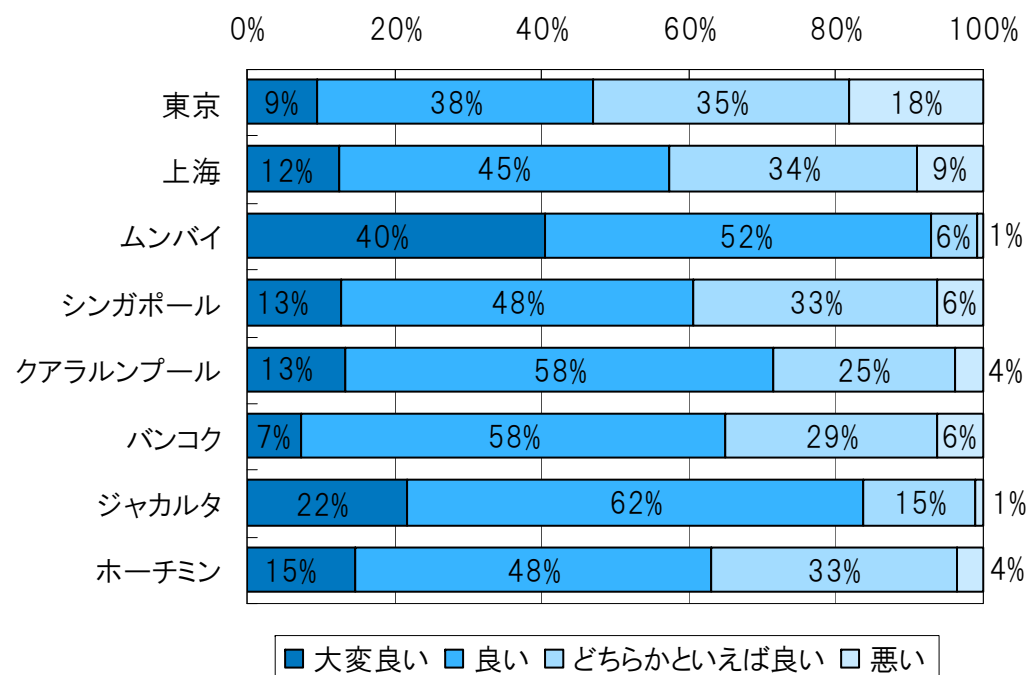
アジア8都市の中間層以上消費者は、総じて健康取組みの必要性を高く感じているが、実行実態とは乖離がある。健康取組みの内容は各都市の健康知識成熟度と文化的・社会的背景によって様々。

<p>健康状態の 自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東京以外の都市では、90%以上が自己の健康状態を良いと評価している。
<p>健康のための 取組みの必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての都市で、90%以上が健康のための取組みの必要性を感じている。 ムンバイ、ジャカルタ、ホーチミン、バンコクでは、特にその傾向が強い。
<p>健康のための 取組み実行実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ムンバイでは健康のための取組みが「必要」と答えた回答者の60%以上が、健康のための取組みを「定期的に行っている」。 一方、シンガポール、バンコク、ホーチミンでは、取組みを「定期的に行っている」のは1/3以下であり、東京では30%強が健康のための取組みを行っていない。
<p>健康取組みの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「油モノをとり過ぎないようにする」「食事の量に注意する」「十分に睡眠をとる」は全都市で上位10位以内。 東京や上海以外では、「健康食品を摂る」「健康や病気に関する情報媒体を見る」、も上位を占める。 ムンバイでは「スポーツをする」の実行率が低い。

5-1. 健康状態の自己評価(Q27)

東京を除くアジア7都市では、90%以上が自己の健康状態を良いと評価している。

Q.あなたの[健康]状態であてはまるものを選んでください。

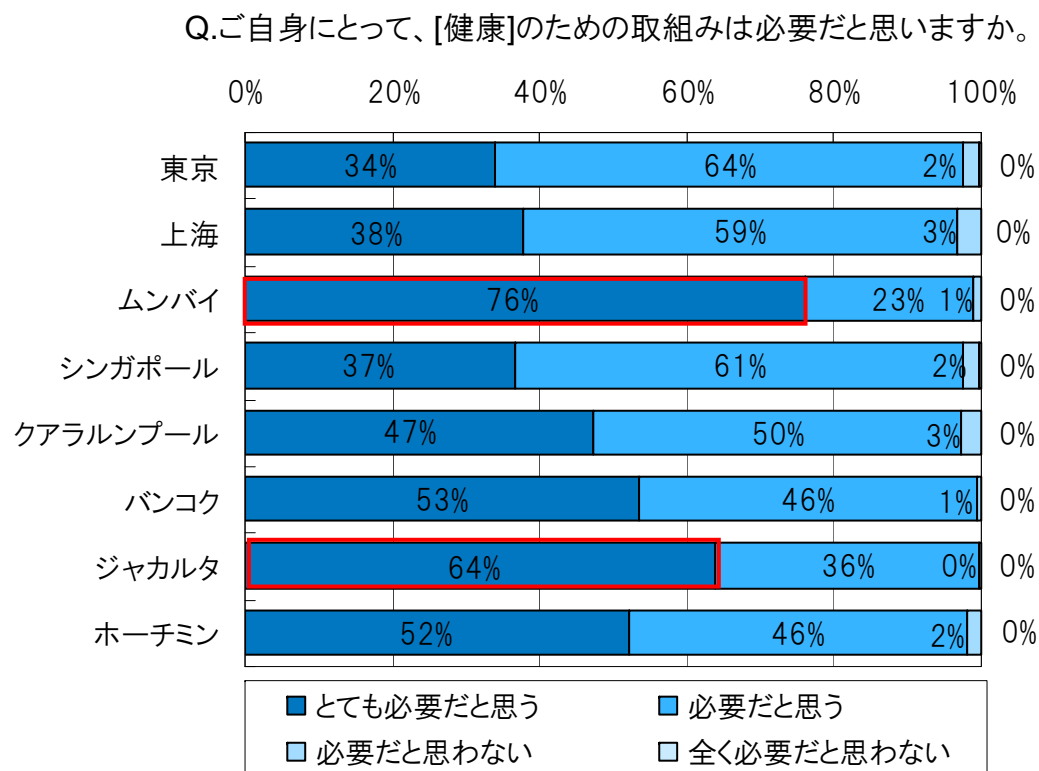


N=4,000

5-2. 健康のための取組みの必要性(Q28)

全ての都市で90%以上が健康のための取組みの必要性を感じている。

ムンバイ・ジャカルタでは、60%以上が健康のための取組みの必要性を強く感じている。

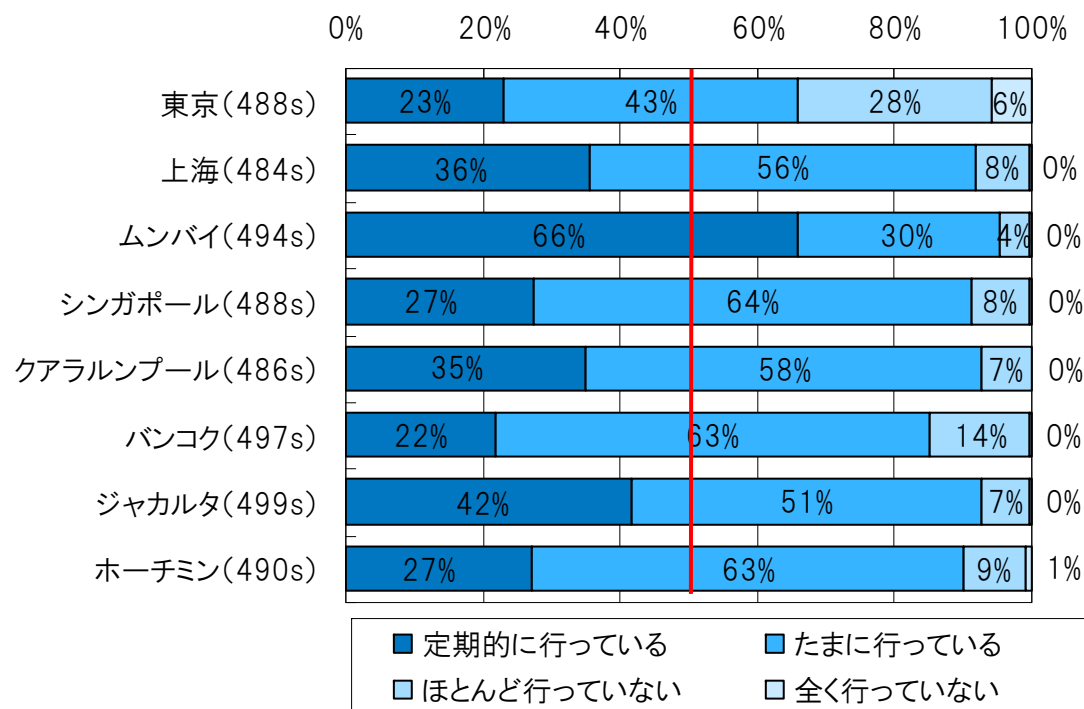


N=4,000

5-3. 健康のための取組み実行実態(Q28・取組みが「必要」と答えた回答者)

健康のための取組みが「必要」と答えた回答者のうち、取組みを「定期的に行っている」の人の割合は、ムンバイでは65%だがその他の都市では50%を切っている。

<健康のための取組みが「必要」と答えた回答者の取組み実行実態>



n=3,926(Q28・健康のための取組みが「必要」と答えた回答者)

5-4. 健康のための取組みの種類別実行率(Q30・取組み実行者)

「油モノをとり過ぎないようにする」は全都市で上位5位以内。

東京の上位5位のうち「食事の量に注意する」「十分に睡眠をとる」は全都市で上位10位以内。

	東京		上海		ムンバイ		シンガポール		クアラルンプール		バンコク		ジャカルタ		ホーチミン	
	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率
十分に睡眠をとる	1	46.2%	2	62.4%	10	38.5%	10	36.7%	8	50.5%	2	58.0%	1	70.1%	1	67.1%
栄養のバランスに気をつける	2	40.8%	1	63.5%	15	29.9%	11	34.7%	9	48.7%	15	30.1%	14	32.5%	7	51.7%
なるべく歩いたり階段を使う	3	38.0%	8	45.4%	11	37.7%	9	37.8%	10	47.9%	11	37.3%	10	41.3%	9	46.7%
食事の量に注意する	4	33.3%	4	56.0%	4	52.5%	3	45.6%	3	57.1%	7	45.4%	6	48.9%	6	52.5%
油モノをとり過ぎないようにする	5	32.3%	5	55.0%	3	53.1%	1	60.6%	2	60.3%	3	56.0%	3	58.5%	3	57.2%
スポーツをする	6	32.1%	3	57.6%	18	27.1%	7	38.2%	11	46.5%	10	38.6%	4	55.1%	8	47.1%
体重/体脂肪/血圧などを測定する	7	32.1%	13	36.1%	13	31.7%	12	34.3%	12	45.7%	9	42.0%	11	37.3%	15	36.8%
カロリーを控える	8	31.6%	15	33.5%	14	30.3%	14	29.9%	14	40.5%	12	34.7%	12	34.7%	17	23.8%
自宅でストレッチやヨガなどをする	9	27.6%	18	28.5%	8	42.5%	18	18.5%	19	22.6%	17	23.3%	19	16.2%	22	7.3%
サプリメントを摂る	10	25.2%	19	27.7%	21	19.6%	2	48.6%	13	44.9%	13	33.9%	8	42.1%	18	22.6%
塩分を控える	11	23.7%	6	50.8%	12	33.9%	5	44.6%	4	53.1%	16	27.9%	16	28.1%	13	41.0%
お酒やタバコを控える	12	22.4%	12	38.4%	17	28.1%	8	38.0%	16	39.9%	1	59.8%	15	29.9%	4	56.2%
早寝早起きをする	13	17.9%	9	45.0%	7	43.9%	19	18.5%	17	34.7%	18	22.9%	9	41.5%	12	43.2%
自宅で浄水器を使う	14	17.1%	17	28.9%	1	70.3%	17	21.1%	6	52.9%	6	45.6%	20	14.0%	14	39.0%
健康食品を摂る	15	16.2%	7	49.8%	5	49.3%	13	33.3%	7	51.1%	4	50.8%	2	62.7%	5	55.8%
糖分を控える	16	16.2%	10	39.4%	9	39.5%	4	44.8%	1	64.5%	8	42.6%	5	52.5%	10	45.5%
健康や病気に関する情報媒体を見る	17	15.6%	14	34.3%	6	44.1%	6	42.6%	5	53.1%	5	48.8%	7	45.3%	2	62.2%
外食を控える	18	14.3%	11	39.4%	2	53.5%	15	25.7%	15	40.1%	19	22.3%	13	34.5%	11	43.8%
スポーツジム、フィットネスジムに行く	19	11.3%	16	29.5%	16	29.9%	20	17.9%	22	17.0%	20	19.5%	22	12.4%	19	18.6%
専門医による健康診断を受ける	20	8.8%	21	19.7%	19	23.0%	16	25.3%	18	24.8%	21	19.5%	21	12.8%	16	33.3%
自宅で健康器具などを使う	21	7.1%	22	17.3%	22	15.8%	21	15.9%	21	18.8%	22	12.9%	18	16.4%	21	16.6%
あてはまるものはない	22	6.2%	23	1.0%	23	0.6%	23	1.8%	23	0.6%	23	0.2%	23	0.2%	23	0.2%
オーガニック食材をとる	23	5.1%	20	26.9%	20	21.6%	22	11.0%	20	20.0%	14	32.9%	17	19.4%	20	16.8%

n=3,956 Q30で「行っていない」と答えた回答者を除く

注)健康への取組みは東京の実行率順に並べている。

出所:日本総研作成

5-4. 健康のための取組みの種類別実行率(Q30・取組み実行者)

東京の上位5位のうち「栄養のバランスに気をつける」は、実行率の順位の高い都市と低い都市に二分される。ムンバイでは「スポーツをする」の実行率が低い。

	東京		上海		ムンバイ		シンガポール		クアラルンプール		バンコク		ジャカルタ		ホーチミン	
	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率
十分に睡眠をとる	1	46.2%	2	62.4%	10	38.5%	10	36.7%	8	50.5%	2	58.0%	1	70.1%	1	67.1%
栄養のバランスに気をつける	2	40.8%	1	63.5%	15	29.9%	11	34.7%	9	48.7%	15	30.1%	14	32.5%	7	51.7%
なるべく歩いたり階段を使う	3	38.0%	8	45.4%	11	37.7%	9	37.8%	10	47.9%	11	37.3%	10	41.3%	9	46.7%
食事の量に注意する	4	33.3%	4	56.0%	4	52.5%	3	45.6%	3	57.1%	7	45.4%	6	48.9%	6	52.5%
油モノをとり過ぎないようにする	5	32.3%	5	55.0%	3	53.1%	1	60.6%	2	60.3%	3	56.0%	3	58.5%	3	57.2%
スポーツをする	6	32.1%	3	57.6%	18	27.1%	7	38.2%	11	46.5%	10	38.6%	4	55.1%	8	47.1%
体重/体脂肪/血圧などを測定する	7	32.1%	13	36.1%	13	31.7%	12	34.3%	12	45.7%	9	42.0%	11	37.3%	15	36.8%
カロリーを控える	8	31.6%	15	33.5%	14	30.3%	14	29.9%	14	40.5%	12	34.7%	12	34.7%	17	23.8%
自宅でストレッチやヨガなどをする	9	27.6%	18	28.5%	8	42.5%	18	18.5%	19	22.6%	17	23.3%	19	16.2%	22	7.3%
サプリメントを摂る	10	25.2%	19	27.7%	21	19.6%	2	48.6%	13	44.9%	13	33.9%	8	42.1%	18	22.6%
塩分を控える	11	23.7%	6	50.8%	12	33.9%	5	44.6%	4	53.1%	16	27.9%	16	28.1%	13	41.0%
お酒やタバコを控える	12	22.4%	12	38.4%	17	28.1%	8	38.0%	16	39.9%	1	59.8%	15	29.9%	4	56.2%
早寝早起きをする	13	17.9%	9	45.0%	7	43.9%	19	18.5%	17	34.7%	18	22.9%	9	41.5%	12	43.2%
自宅で浄水器を使う	14	17.1%	17	28.9%	1	70.3%	17	21.1%	6	52.9%	6	45.6%	20	14.0%	14	39.0%
健康食品を摂る	15	16.2%	7	49.8%	5	49.3%	13	33.3%	7	51.1%	4	50.8%	2	62.7%	5	55.8%
糖分を控える	16	16.2%	10	39.4%	9	39.5%	4	44.8%	1	64.5%	8	42.6%	5	52.5%	10	45.5%
健康や病気に関する情報媒体を見る	17	15.6%	14	34.3%	6	44.1%	6	42.6%	5	53.1%	5	48.8%	7	45.3%	2	62.2%
外食を控える	18	14.3%	11	39.4%	2	53.5%	15	25.7%	15	40.1%	19	22.3%	13	34.5%	11	43.8%
スポーツジム、フィットネスジムに行く	19	11.3%	16	29.5%	16	29.9%	20	17.9%	22	17.0%	20	19.5%	22	12.4%	19	18.6%
専門医による健康診断を受ける	20	8.8%	21	19.7%	19	23.0%	16	25.3%	18	24.8%	21	19.5%	21	12.8%	16	33.3%
自宅で健康器具などを使う	21	7.1%	22	17.3%	22	15.8%	21	15.9%	21	18.8%	22	12.9%	18	16.4%	21	16.6%
あてはまるものはない	22	6.2%	23	1.0%	23	0.6%	23	1.8%	23	0.6%	23	0.2%	23	0.2%	23	0.2%
オーガニック食材をとる	23	5.1%	20	26.9%	20	21.6%	22	11.0%	20	20.0%	14	32.9%	17	19.4%	20	16.8%

n=3,956 Q30で「行っていない」と答えた回答者を除く

注)健康への取組みは東京の実行率順に並べている。

出所:日本総研作成

5-4. 健康のための取組みの種類別実行率(Q30・取組み実行者)

東京やシンガポール以外では、「健康食品を摂る」も上位を占める。
 東京や上海以外では、「健康や病気に関する情報媒体を見る」も上位を占める。

	東京		上海		ムンバイ		シンガポール		クアラルンプール		バンコク		ジャカルタ		ホーチミン	
	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率
十分に睡眠をとる	1	46.2%	2	62.4%	10	38.5%	10	36.7%	8	50.5%	2	58.0%	1	70.1%	1	67.1%
栄養のバランスに気をつける	2	40.8%	1	63.5%	15	29.9%	11	34.7%	9	48.7%	15	30.1%	14	32.5%	7	51.7%
なるべく歩いたり階段を使う	3	38.0%	8	45.4%	11	37.7%	9	37.8%	10	47.9%	11	37.3%	10	41.3%	9	46.7%
食事の量に注意する	4	33.3%	4	56.0%	4	52.5%	3	45.6%	3	57.1%	7	45.4%	6	48.9%	6	52.5%
油モノをとり過ぎないようにする	5	32.3%	5	55.0%	3	53.1%	1	60.6%	2	60.3%	3	56.0%	3	58.5%	3	57.2%
スポーツをする	6	32.1%	3	57.6%	18	27.1%	7	38.2%	11	46.5%	10	38.6%	4	55.1%	8	47.1%
体重/体脂肪/血圧などを測定する	7	32.1%	13	36.1%	13	31.7%	12	34.3%	12	45.7%	9	42.0%	11	37.3%	15	36.8%
カロリーを控える	8	31.6%	15	33.5%	14	30.3%	14	29.9%	14	40.5%	12	34.7%	12	34.7%	17	23.8%
自宅でストレッチやヨガなどをする	9	27.6%	18	28.5%	8	42.5%	18	18.5%	19	22.6%	17	23.3%	19	16.2%	22	7.3%
サプリメントを摂る	10	25.2%	19	27.7%	21	19.6%	2	48.6%	13	44.9%	13	33.9%	8	42.1%	18	22.6%
塩分を控える	11	23.7%	6	50.8%	12	33.9%	5	44.6%	4	53.1%	16	27.9%	16	28.1%	13	41.0%
お酒やタバコを控える	12	22.4%	12	38.4%	17	28.1%	8	38.0%	16	39.9%	1	59.8%	15	29.9%	4	56.2%
早寝早起きをする	13	17.9%	9	45.0%	7	43.9%	19	18.5%	17	34.7%	18	22.9%	9	41.5%	12	43.2%
自宅で浄水器を使う	14	17.1%	17	28.9%	1	70.3%	17	21.1%	6	52.9%	6	45.6%	20	14.0%	14	39.0%
健康食品を摂る	15	16.2%	7	49.8%	5	49.3%	13	33.3%	7	51.1%	4	50.8%	2	62.7%	5	55.8%
糖분을控える	16	16.2%	10	39.4%	9	39.5%	4	44.8%	1	64.5%	8	42.6%	5	52.5%	10	45.5%
健康や病気に関する情報媒体を見る	17	15.6%	14	34.3%	6	44.1%	6	42.6%	5	53.1%	5	48.8%	7	45.3%	2	62.2%
外食を控える	18	14.3%	11	39.4%	2	53.5%	15	25.7%	15	40.1%	19	22.3%	13	34.5%	11	43.8%
スポーツジム、フィットネスジムに行く	19	11.3%	16	29.5%	16	29.9%	20	17.9%	22	17.0%	20	19.5%	22	12.4%	19	18.6%
専門医による健康診断を受ける	20	8.8%	21	19.7%	19	23.0%	16	25.3%	18	24.8%	21	19.5%	21	12.8%	16	33.3%
自宅で健康器具などを使う	21	7.1%	22	17.3%	22	15.8%	21	15.9%	21	18.8%	22	12.9%	18	16.4%	21	16.6%
あてはまるものはない	22	6.2%	23	1.0%	23	0.6%	23	1.8%	23	0.6%	23	0.2%	23	0.2%	23	0.2%
オーガニック食材をとる	23	5.1%	20	26.9%	20	21.6%	22	11.0%	20	20.0%	14	32.9%	17	19.4%	20	16.8%

n=3,956 Q30で「行っていない」と答えた回答者を除く

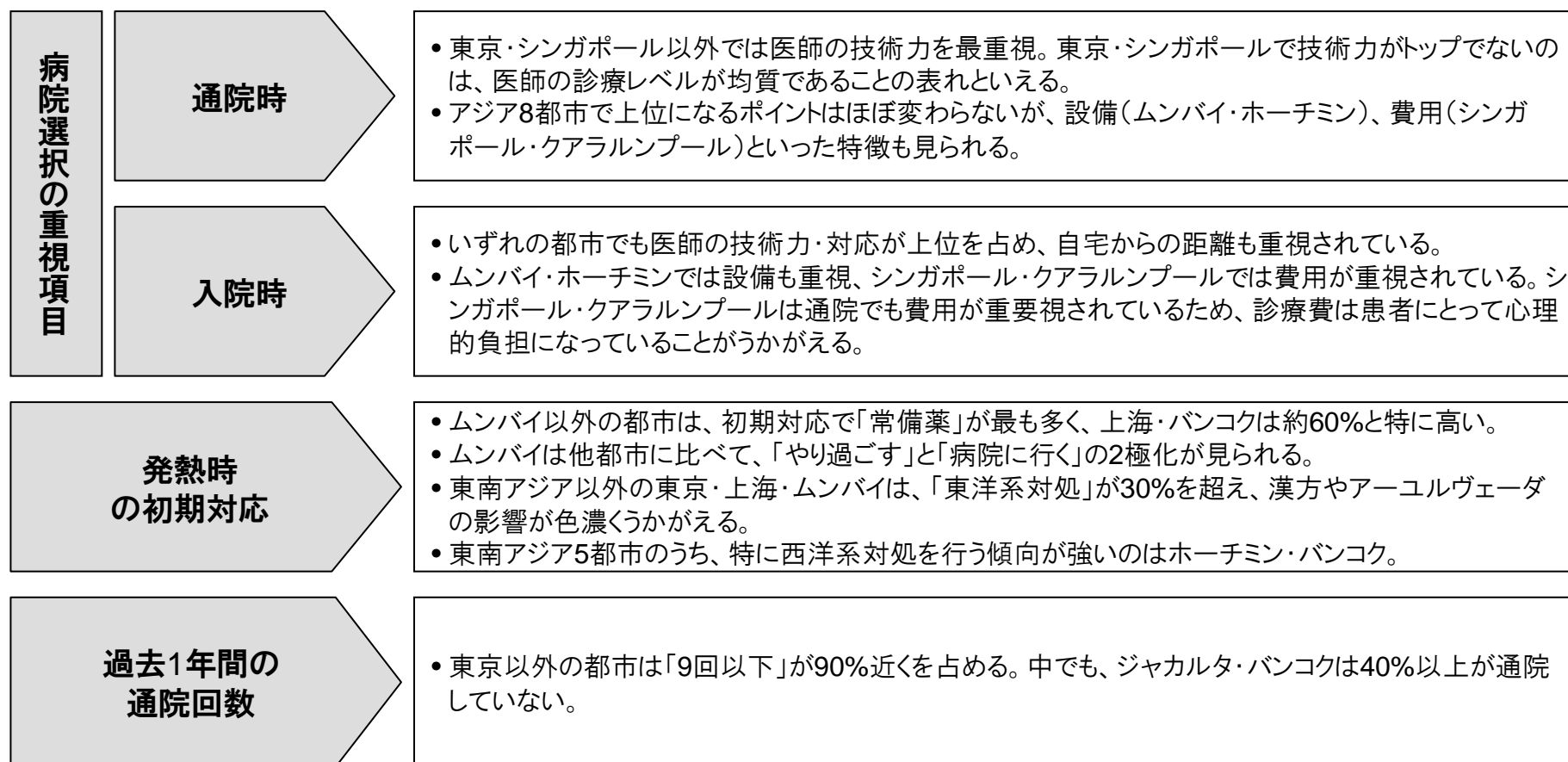
注)健康への取組みは東京の実行率順に並べている。

出所:日本総研作成

6. 医療

「医療」サマリー

病院選択の際、ムンバイ・ホーチミンは他都市に比べて「設備」、シンガポール・クアラルンプールは「費用」を重視する傾向が見られる。東京は、「通院」回数や費用割合が多く、相対的に病院が身近な存在となっている。



6-1. 通院時の重視項目(Q34)

東京・シンガポール以外は医師の技術力を最重視。東京・シンガポールの医師レベルの均質性がうかがえる。その他、設備重視(ムンバイ・ホーチミン)、費用重視(シンガポール・クアラルンプール)の特徴も見られる。

Q.あなたが医療機関を選ぶ際、通院の場合に重視する項目を順番に3位まで選んでください。

	1位	平均点	2位	平均点	3位	平均点
東京	自宅から近い	1.8	医師の対応が良い	1.1	医師の技術力がある	0.8
上海	医師の技術力がある	1.7	自宅から近い	0.9	医師の対応が良い	0.7
ムンバイ	医師の技術力がある	1.2	診療設備が最新	0.9	医師の対応が良い	0.8
シンガポール	自宅から近い	0.9	医師の技術力がある	0.8	費用が安い	0.8
クアラルンプール	医師の技術力がある	1.3	自宅から近い	0.8	費用が安い	0.8
バンコク	医師の技術力がある	1.5	医師の対応が良い	0.9	自宅から近い	0.8
ジャカルタ	医師の技術力がある	1.1	医師の対応が良い	1.0	自宅から近い	0.7
ホーチミン	医師の技術力がある	1.4	医師の対応が良い	1.3	診療設備が最新	0.8

※重視する上位3項目に対して、1位=3点、2位=2点、3位=1点としてポイントを付与。上記は平均点の高い項目。

N=4,000

6-2. 入院時の重視項目(Q35)

いずれの都市でも医師の技術力・対応が上位を占め、自宅からの距離も重視されている。
 ムンバイ・ホーチミンでは設備も重視、シンガポール・クアラルンプールでは費用が重視されている。

Q.あなたが医療機関を選ぶ際、入院の場合に重視する項目を順番に3位まで選んでください。

	1位	平均点	2位	平均点	3位	平均点
東京	医師の技術力がある	1.4	医師の対応が良い	1.1	自宅から近い	0.8
上海	医師の技術力がある	1.8	医師の対応が良い	0.6	自宅から近い	0.6
ムンバイ	医師の技術力がある	1.4	診療設備が最新	0.8	医師の対応が良い	0.5
シンガポール	医師の技術力がある	1.1	費用が安い	0.8	待ち時間が短い	0.6
クアラルンプール	医師の技術力がある	1.6	費用が安い	1.0	医師の対応が良い	0.8
バンコク	医師の技術力がある	1.6	医師の対応が良い	1.1	自宅から近い	0.7
ジャカルタ	医師の対応が良い	1.1	医師の技術力がある	0.8	自宅から近い	0.6
ホーチミン	医師の技術力がある	1.3	診療設備が最新	1.3	医師の対応が良い	0.7

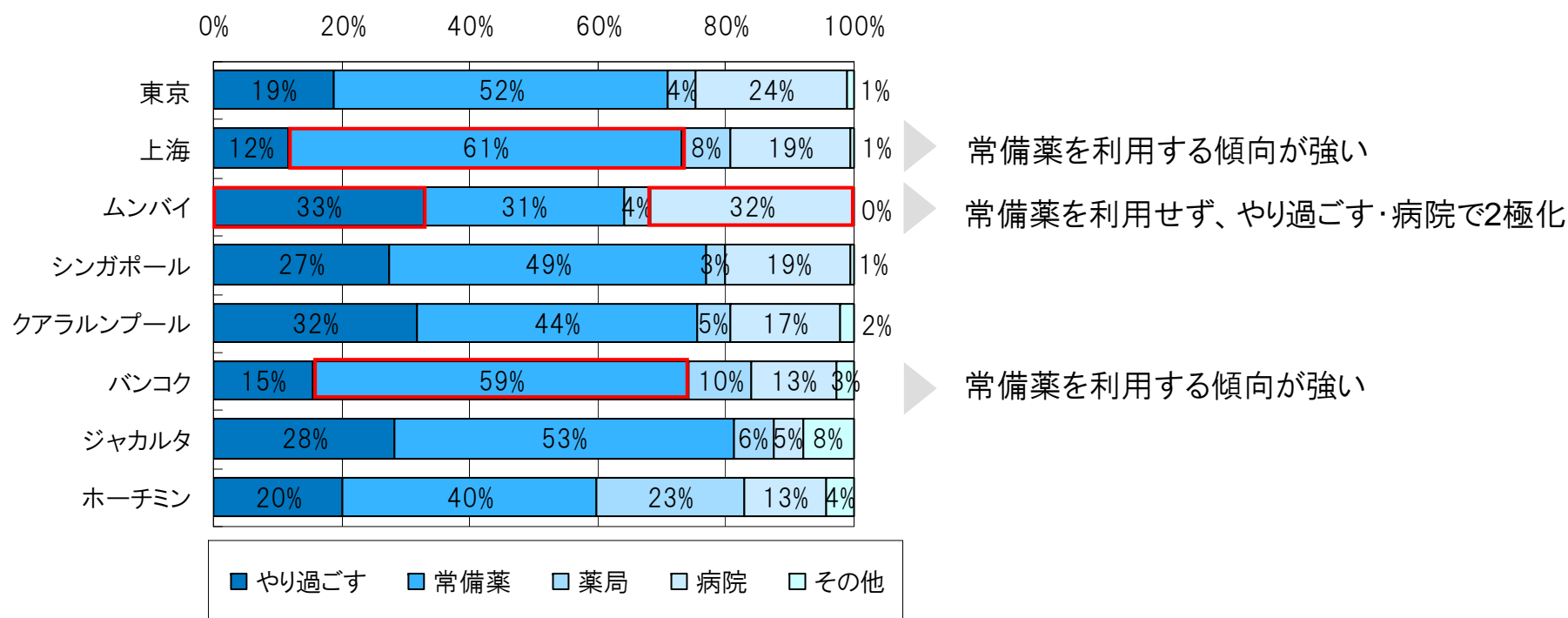
※重視する上位3項目に対して、1位=3点、2位=2点、3位=1点としてポイントを付与。上記は平均点の高い項目。

N=4,000

6-3. 発熱時の初期治療(Q33)

ムンバイ以外のアジア7都市は、初期対応で「常備薬」が最も多く、上海・バンコクは約60%と特に高い。
ムンバイは他都市に比べて、「やり過ごす」と「病院に行く」の二極化が見られる。

Q.あなたは、朝起きて平熱より2度以上高そうな熱があった場合、主にどのような処置を取りますか。

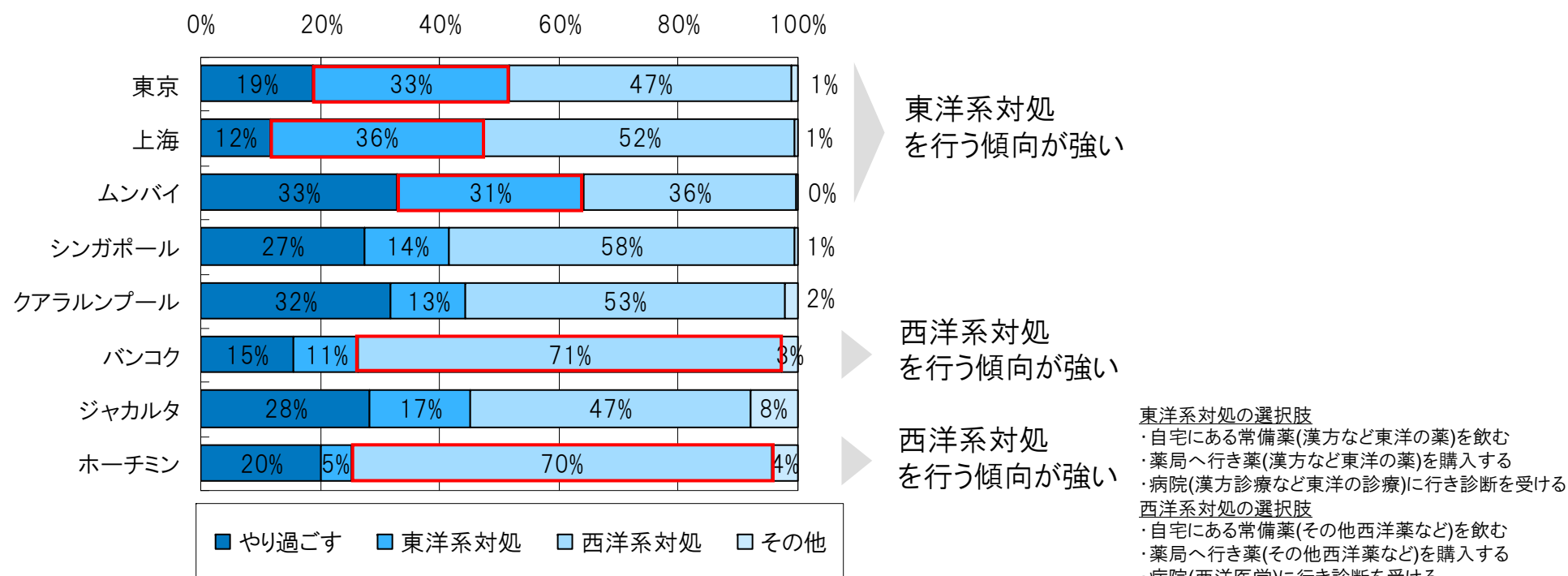


N=4,000

6-4. 発熱時の初期治療(Q33)

東南アジア以外の東京・上海・ムンバイは、「東洋系対処」が30%を超え、漢方やアーユルヴェーダの影響が色濃くうかがえる。東南アジア5都市のうち、特に西洋系対処を行う傾向が強いのはホーチミン・バンコク。

Q.あなたは、朝起きて平熱より2度以上高そうな熱があった場合、主にどのような処置を取りますか。



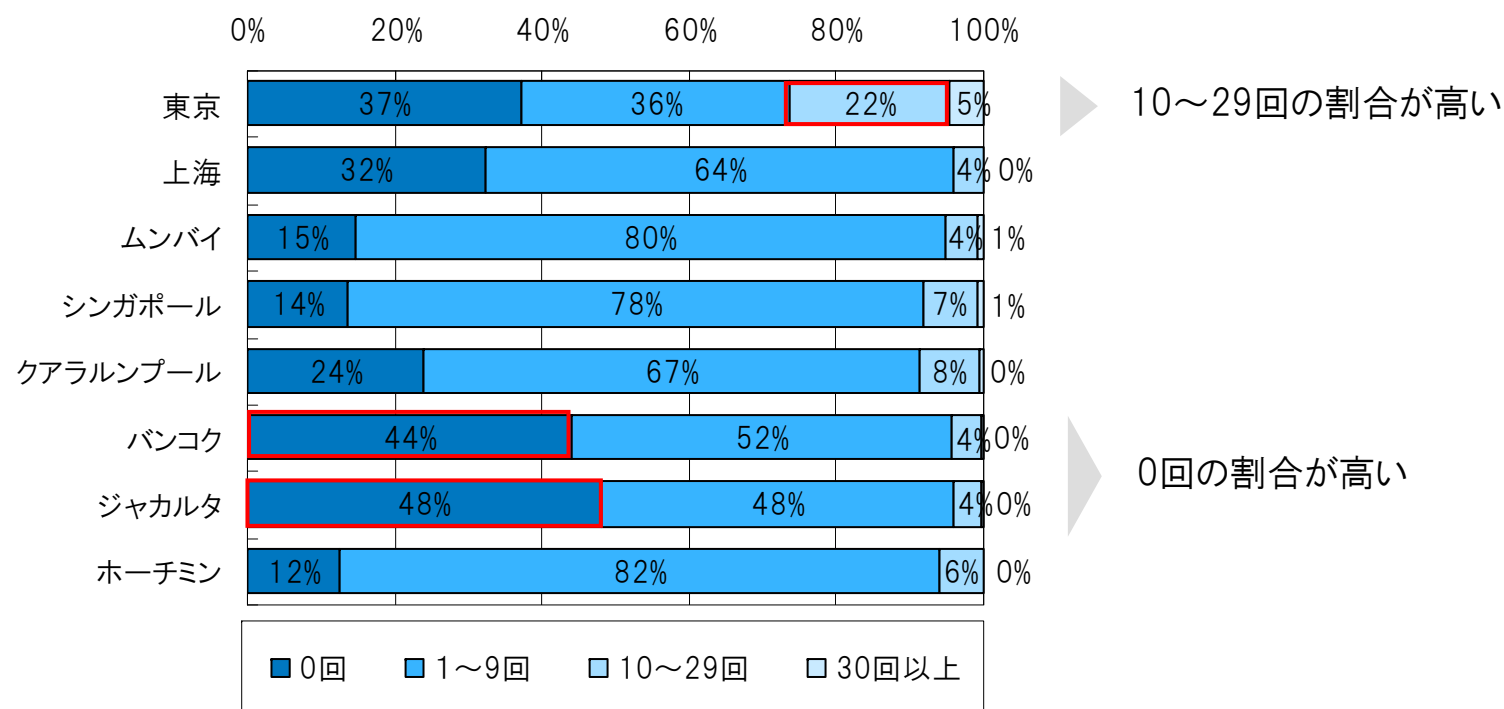
N=4,000

6-5. 過去1年間の通院回数(Q32)

東京以外のアジア7都市は「9回以下」が90%近くを占める。

中でも、ジャカルタ・バンコクは40%以上が通院していない。東京は「10回以上」との回答比率が高い。

Q. あなたは、過去1年間でどのくらい医療機関(病院、診療所、歯医者等全ての医療機関)に行きましたか。

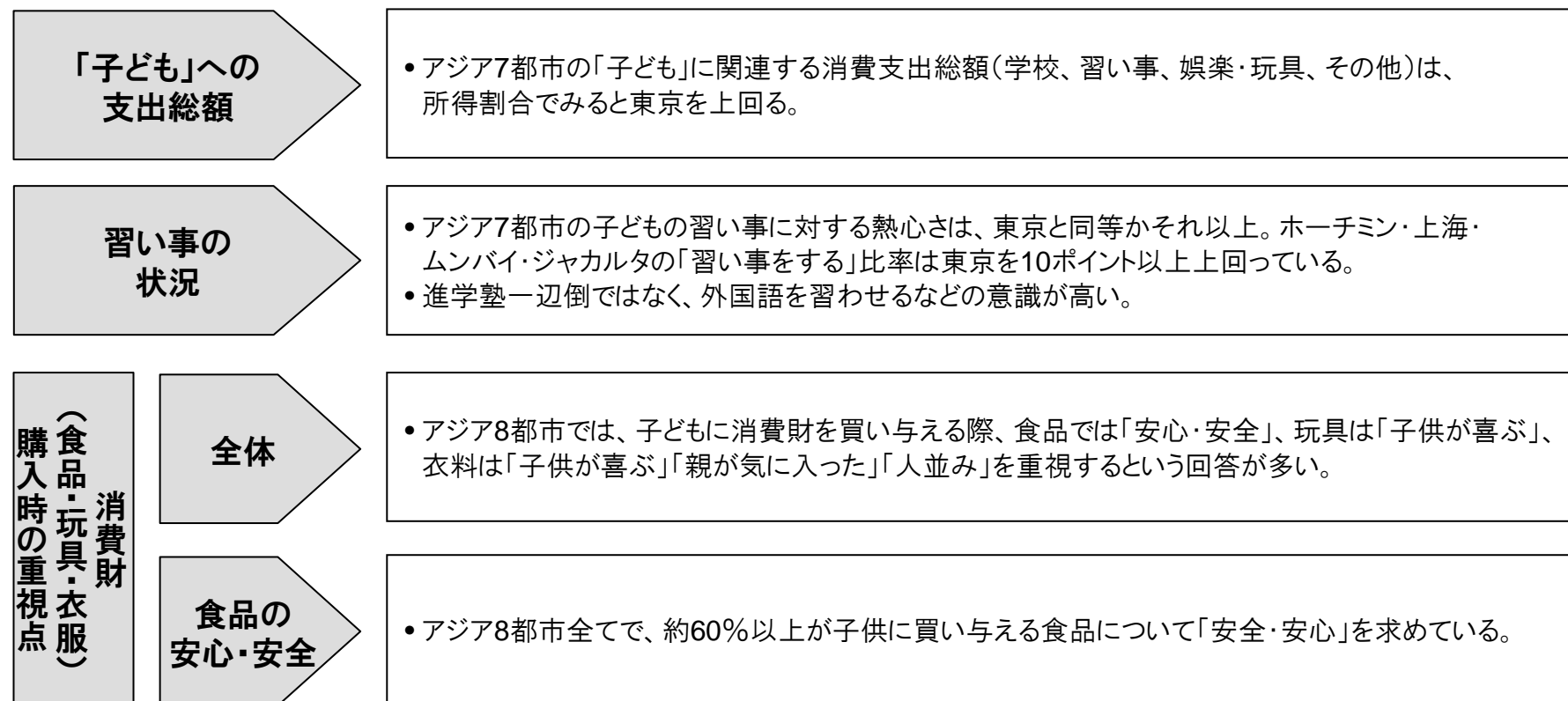


N=4,000

7. 子ども

「子ども」サマリー

アジア7都市の中間層以上は東京に比べて、「子ども」に関連する消費に積極的。
 「子ども」に関連する消費支出額の所得割合が高く、習い事に熱心な様子もうかがえる。



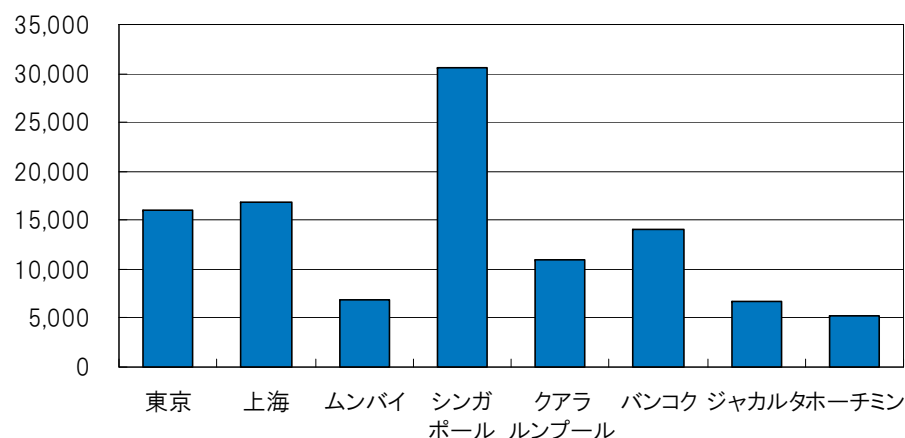
7-1. 子ども関連支出(Q48・子どものいる世帯)

「子ども関連支出(学校、習い事、娯楽・玩具、その他)」は、所得水準の高い都市で多くなっている。一方、可処分所得に占める割合では、アジア7都市で軒並み東京より高くなっている。

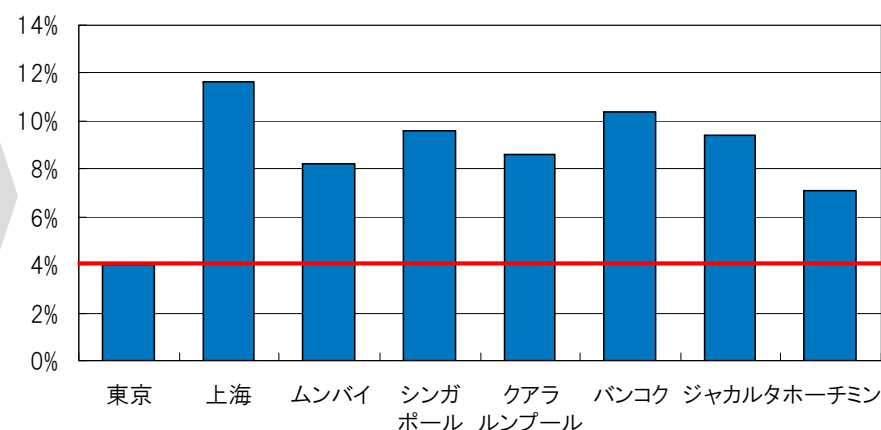
Q (最も支出の多い)子ども/孫に対する支出<学校、習い事、娯楽・玩具、その他>は、どの程度ありますか。

(円換算)

<子ども関連支出(月額)>



<子ども関連支出(月の収入に対する割合)>



(注1)子ども

本調査では、19歳以下の子ども/孫を「子ども」と定義

(注2)子ども関連消費

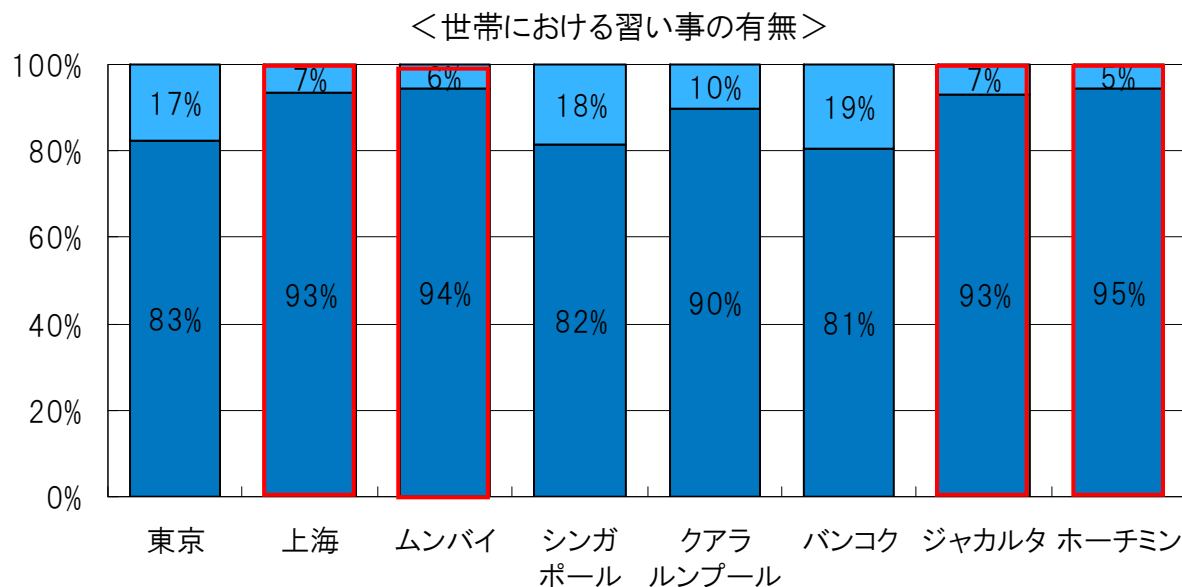
本調査では、子どもの「学校」「習い事/その他教育」「娯楽/玩具」「その他」のための支出を指す

n=1,905

7-2. 習い事(Q45・幼稚園児/小学生/中高生のいる世帯)

アジア7都市の子どもの習い事に対する熱心さは、東京と同等かそれ以上。
ホーチミン・上海・ムンバイ・ジャカルタの「習い事をする」比率は東京を10ポイント以上上回っている。

Q 19歳以下のあなたの子ども／孫はどういった習い事をしていますか。



(注)習い事

本調査での「習い事」には以下が含まれる。

「受験が目的ではない学習塾」「受験が目的の学習塾」
「外国語」「計算(そろばん等)」「スイミング」「その他スポーツ」
「ピアノ」「その他楽器」「バレエ」「絵画」「通信教育」「その他」

■ 習い事をさせている ■ 習い事をさせていない

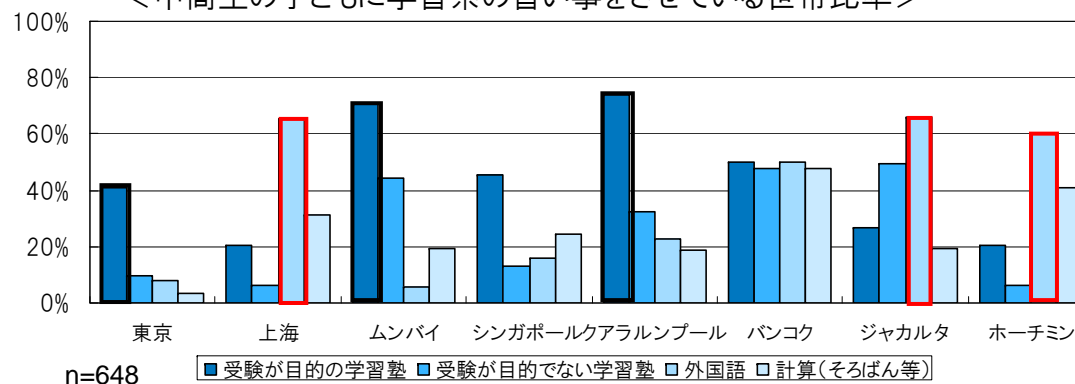
n=1,389

7-3. 習い事(Q45・小学生/中高生のいる世帯)

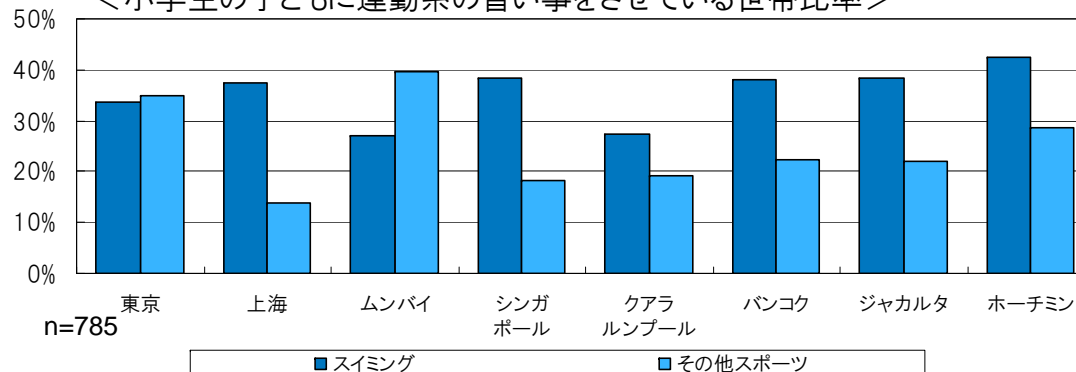
アジア8都市それぞれに「進学・受験のため」に限らず、外国語学習をさせるなど子どもの習い事について熱心な様子が見られる。

Q あなたの子ども/孫はどういった習い事をしていますか。

＜中高生の子どもに学習系の習い事をさせている世帯比率＞

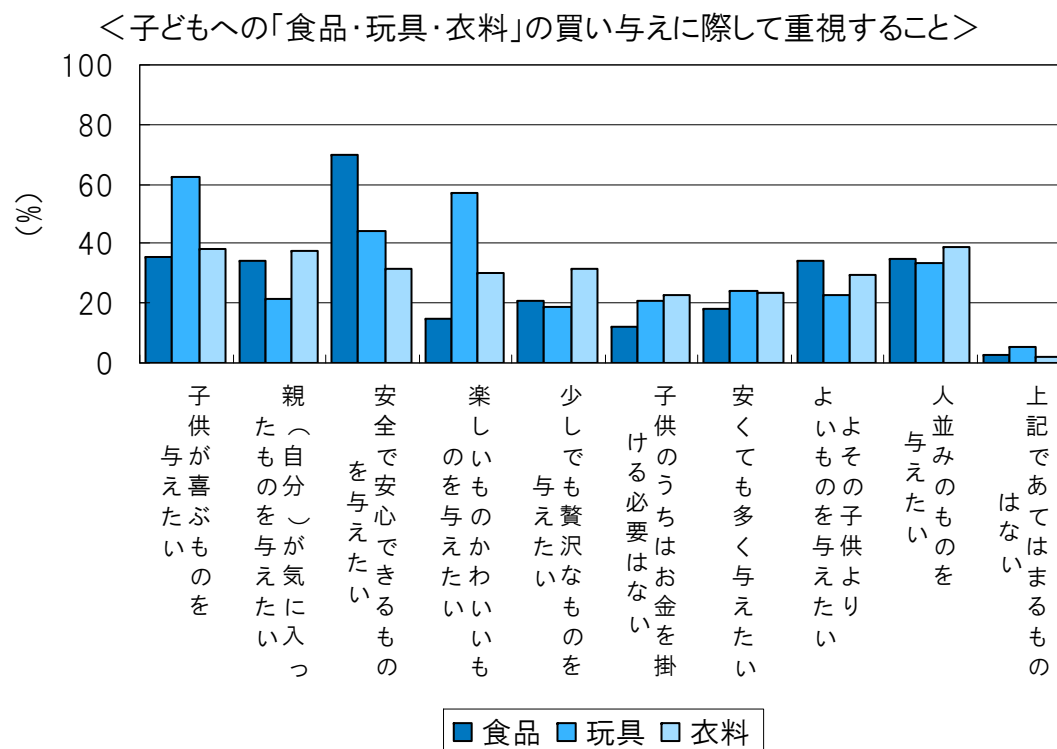


＜小学生の子どもに運動系の習い事をさせている世帯比率＞



7-4. 消費財支出(Q44・子どものいる世帯)

アジア8都市では、子どもに買い与えるという観点から、特に食品において「安全・安心」を重視する比率が非常に高くなった。玩具では「子供が喜ぶ」、衣料は「子供が喜ぶ」「親が気に入った」「人並み」の比率が高い。



(注)消費財

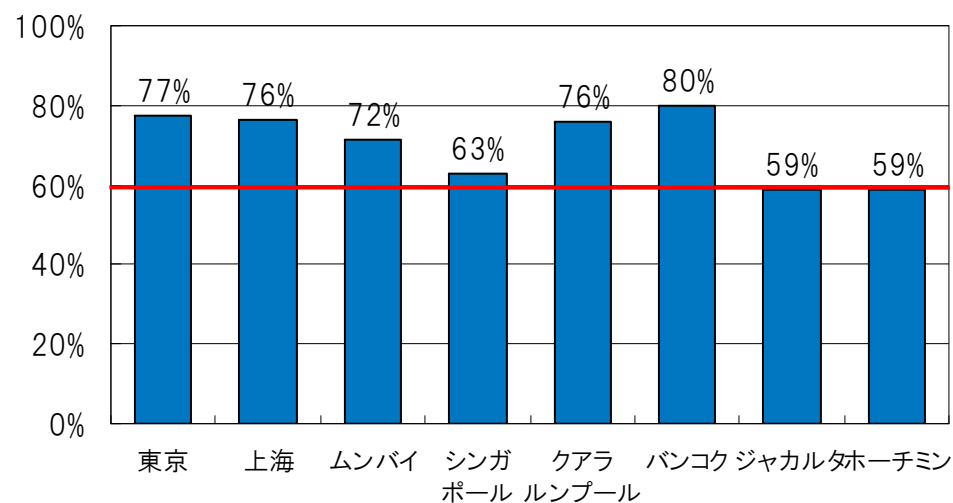
本調査の子ども関連の消費財は、「食品・玩具・衣料」を指す

n=1,905

7-5. 食品支出(Q44・子どものいる世帯)

アジア8都市とも、約60%以上が子どもに買い与える食品について「安全・安心」を求めている。

<「食品」を買い与える際に「安全・安心」を重視する世帯比率>



n=1,905

8. 観光

「観光」サマリー

アジア7都市の中間層以上の25%が訪日経験あり。日本への旅行意向は香港・台湾・シンガポール・韓国と比べて高い。訪日目的1位は全都市とも「自然景観/田園風景」だが、2位以下は都市ごとに特徴が見られる。

日本への 旅行経験

- 東京を除くアジア7都市の25%が日本への旅行経験がある。
- (シンガポールを除く7都市から)シンガポールへ、および(8都市から)香港への旅行経験率は、日本を上回る。

日本への 旅行意向

- アジア7都市から日本への旅行意向は約70%で、香港・台湾・シンガポール・韓国と比べて高い。
- 訪日意向のある回答者のうち20%以上は、すでに行く都市や地域も決まっている。

日本への 旅行目的

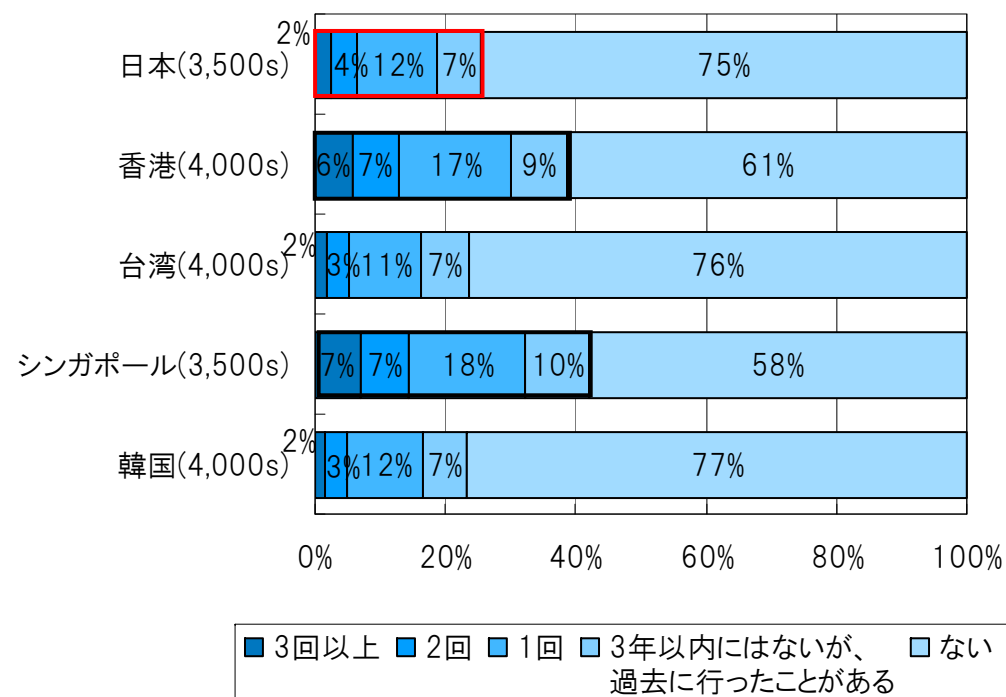
- 回答者の3分の1以上が「自然景観/田園風景」を目的としている。また、「伝統文化(相撲/歌舞伎)」「伝統建築/町並み」「日本食」など、伝統的な日本らしさを求める回答比率が高い。
- 都市によって訪日目的に特徴が見られる。2位以下を見ると、上海は「和」の要素が上位にランクインするが、他都市では「大都市」の要素も求めている。

8-1. アジア5地域への旅行経験(Q49)

東京を除くアジア7都市の25%が日本への旅行経験がある。

(シンガポールを除く7都市から)シンガポールへ、および(8都市から)香港への旅行経験率は、日本を上回る。

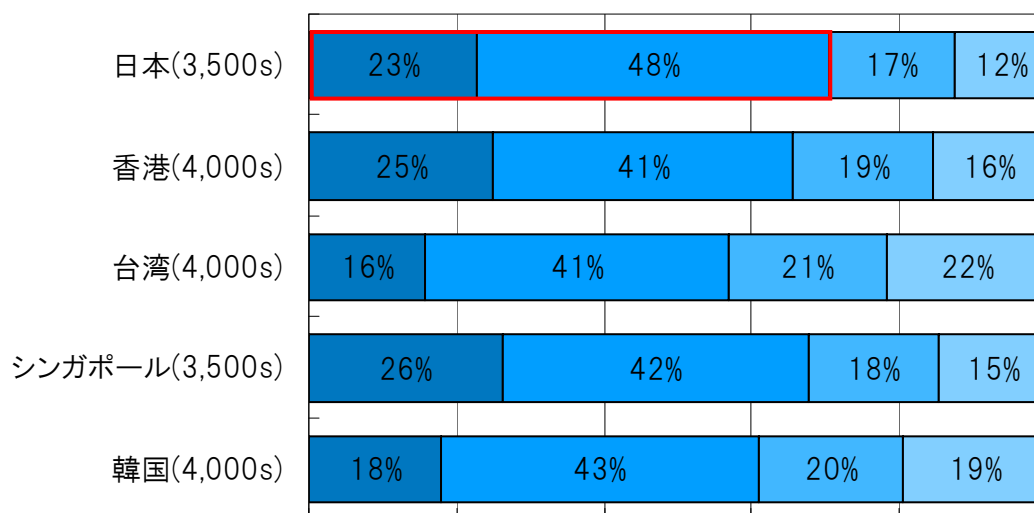
Q.あなたご自身は、この3年以内に、次の国(地域)へ観光旅行に行ったことはありますか。



8-2. 日本への旅行意向(Q50)

アジア7都市から日本への旅行意向は約70%で、香港・台湾・シンガポール・韓国と比べて最も高い。うち20%強はすでに行く都市や地域も決まっている。

Q. 今後3年以内に、次の国(地域)へ観光旅行に行ってみたいですか、行ってみたくないですか。



- 行ってみたい、かつどの都市/地域に行きたいかも決まっている
- 行ってみたいが、どの都市/地域に行きたいかは決まっていない
- わからない
- 行きたくない

旅行意向あり:

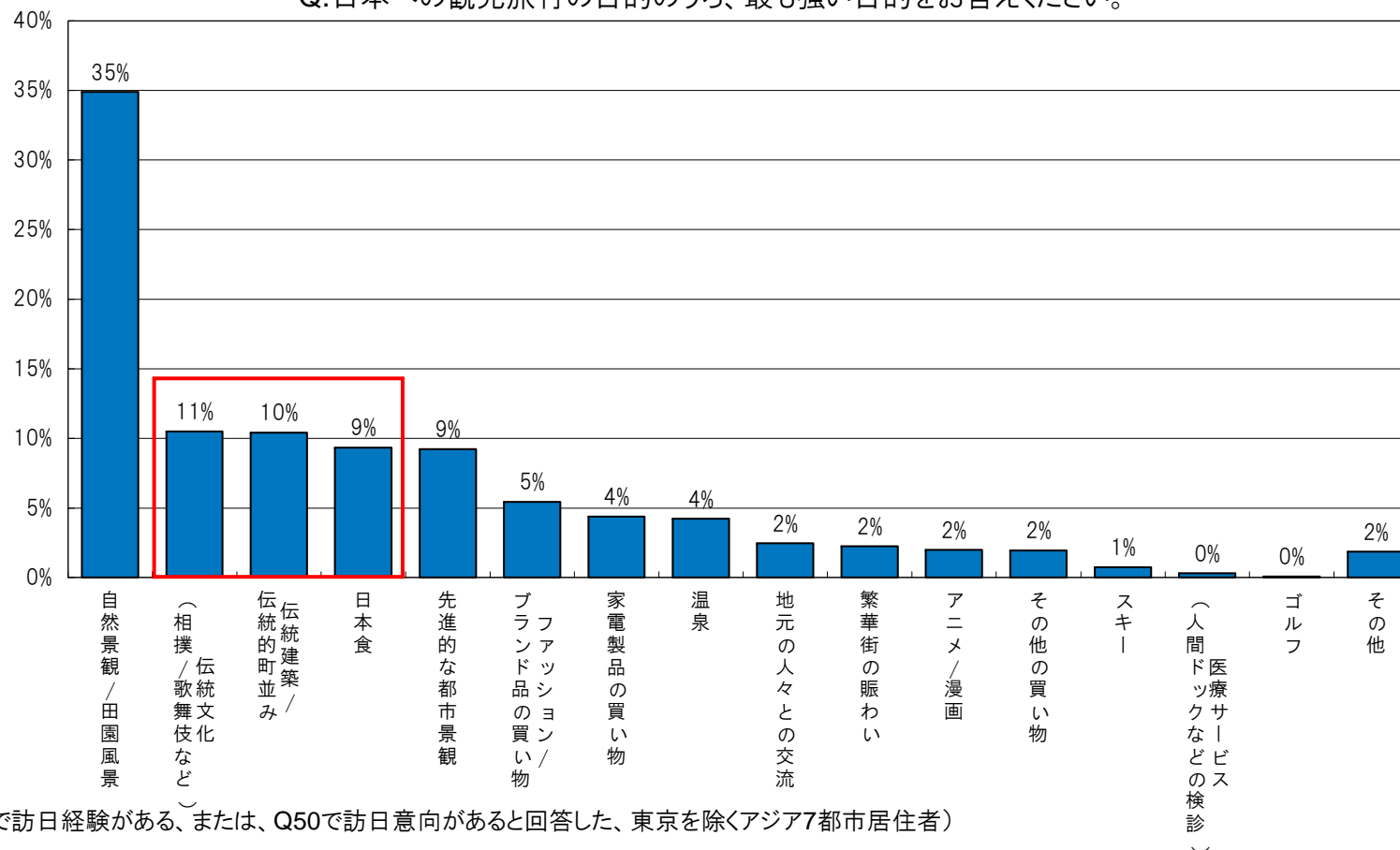
今後3年以内にその国/地域へ「行ってみたい、かつどの都市/地域に行きたいかも決まっている」と「行ってみたいが、どの都市/地域に行きたいかは決まっていない」と回答

8-3. 日本への旅行目的-全体(Q52)

回答者の3分の1以上の比率が「自然景観/田園風景」を目的としている。

「伝統文化(相撲/歌舞伎)」「伝統建築/町並み」「日本食」など、伝統的な日本らしさを求める回答比率が続く。

Q.日本への観光旅行の目的のうち、最も強い目的をお答えください。



n=2,602(Q49で訪日経験がある、または、Q50で訪日意向があると回答した、東京を除くアジア7都市居住者)

8-4. 日本への旅行目的-都市別(Q52)

各都市とも訪日目的の1位は「自然景観／田園風景」だが、2位以降は都市により異なる。
 2位以下を見ると、上海は「和」の要素が上位を占めるが、他都市では「大都市」の要素も求めている。

順位	上海 (384s)	選択率 (%)	ムンバイ (223s)	選択率 (%)	シンガポール (433s)	選択率 (%)	クアラル ンプール (394s)	選択率 (%)	バンコク (449s)	選択率 (%)	ジャカルタ (357s)	選択率 (%)	ホーチミン (362s)	選択率 (%)
1	自然景観／ 田園風景	36.7	自然景観／ 田園風景	26.0	自然景観／ 田園風景	41.6	自然景観／ 田園風景	40.7	自然景観／ 田園風景	37.6	自然景観／ 田園風景	31.7	自然景観／ 田園風景	23.8
2	伝統建築／ 伝統的町並	11.7	買物 (家電)	20.2	日本食	16.4	伝統建築／ 伝統的町並	10.7	日本食	11.8	伝統建築／ 伝統的町並	16.8	伝統文化	18.2
3	温泉	10.9	伝統建築／ 伝統的町並	16.1	買物 (ファッション)	9.0	先進的 都市景観	9.9	先進的 都市景観	11.6	伝統文化	15.4	先進的 都市景観	
4	伝統文化	9.4	伝統文化	13.9	伝統建築／ 町並	5.8	日本食	8.9	伝統文化	7.3	先進的 都市景観	10.6	伝統建築／ 伝統的町並	12.2
5	日本食	6.3	買物 (ファッション)	4.9	伝統文化	5.1	伝統文化	7.7	買物 (ファッション)	6.5	繁華街 日本食	4.2	日本食	11.6

注) 上位5位のみを表示。
 全体平均で5位以下の項目のセルを着色。

n=2,602(Q49で訪日経験がある、または、Q50で訪日意向があると回答した、東京を除くアジア7都市居住者)

お問い合わせ

本件に関するお問い合わせ、ご確認は下記までお願いいたします。

株式会社日本総合研究所 総合研究部門
社会・産業デザイン事業部
ビジネスリサーチグループ

シニアマネージャー 新角 耕司
E-mail: shinkado.koji@jri.co.jp
〒550-0001 大阪市西区土佐堀2丁目2番4号 土佐堀ダイビル

リサーチアナリスト 富田 奈央子
E-mail: tomita.naoko@jri.co.jp
〒141-0022 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。